

公益社団法人日本看護科学学会 2023年6月定時社員総会 議事録

日 時：2023年6月18日（日）13：00～14：50

場 所：AP 東京八重洲

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP 八重洲ビル 11階

Tel. 03-6228-8109

総社員数：340名

出席社員数：299名（会場85名、委任状214名）

出席理事・監事：堀内成子（理事長）、法橋尚宏（副理事長）

（うち4人社員）池田真理、石橋みゆき、井上智子、江藤宏美、大久保暢子、亀井智子、近藤暁子、
須釜淳子、仲上豪二郎、中村幸代
南裕子（監事）、村嶋幸代（監事）（以上50音順）

議長：堀内成子（理事長）

議事録作成者：竹内翔子（横浜市立大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

I. 開会

開会時、会場56名、委任状・議決権行使提出者214名で、総計270名となり、日本看護科学学会定款第23条および第24条に定められた要件を満たしているため、公益社団法人日本看護科学学会2023年6月定時社員総会を開会する旨が伝えられた。司会は法橋尚宏（副理事長）、書記は竹内翔子（横浜市立大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）で行われた。

II. 理事長挨拶

堀内成子理事長より、以下の挨拶があった。

定時社員総会では、2019年の総会以来の対面での社員総会となる。こうして皆さんにお会いできての総会が開催でき大変うれしく思う。今期は3つの重点目標を掲げて取り組んできた。各理事には最初に目標設定とそれを目指すためのTO-DOリストを提出いただき、活動をお願いしてきた。

- ① 若手研究者の育成では、前期に引き続き、和文誌、英文誌での迅速査読の実施による論文公表の場の拡大と研究能力の向上、国際化の促進、次世代研究者の発掘
- ② 研究活動の推進では、「研究助成」制度の創設、社会貢献活動の促進、COVID-19関連研究、他の学会との連携
- ③ 将来を見据えた法人運営では、財産の適正な管理や会則の整備、事務局運営の改善として事務所の移転と事務処理の効率化

活動の詳細は総会の最後にお手元に配布した「活動・評価報告書」に基づき報告したい。

代議員の皆様には社員として学会運営に多大なるご貢献をいただき、たいへん感謝を申し上げる次第である。本日の社員総会では、2022年度の事業報告、次期役員候補者の承認、2022年度決算、名誉会員の承認についてご審議いただきたい。

最後に、名誉会員の樋口康子先生が6月11日ご逝去された。日本看護科学学会では理事5期のうち1期が理事長、評議員は5期務めており、学術集会の会長もされるなど看護学の発展に大いに寄与された。樋口先生のご冥福をお祈りし、黙祷をささげるとの報告があり、一同黙祷を行った。

III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款22条3項に従い、堀内理事長が議長に選出された。

議事録署名人については、会場からは希望者が出なかったため、議長から佐伯由香氏（愛媛大学）と樋之津淳子氏（札幌市立大学）の2名が推薦され、承認された。

IV. 報告事項

1. 理事会および社員総会報告<中村幸代理事>

1) 理事会報告：議案書（p.4-7）に基づき報告があった。

2022年度理事会は、計7回、うち5回はオンライン、1回は対面、1回は書面審議であった。理事会では、選挙管理委員の選定、各委員会からの報告、入会希望者の承認、新たな取り組みとして実施した研究助成の規則の作成や内閣府への認定申請、そして昨年8月の事務所移転、2022年度決算見込みと正会員の会費配分や予算執行状況、このたびの2023年6月定時社員総会の開催等の審議を行った。各回の詳細は議案書を参照のこと。

2) 社員総会報告：議案書（p.8-9）に基づき報告があった。

社員総会は全2回実施した。2022年6月19日（日）の定時社員総会はオンライン、12月2日（金）の12月社員総会は広島で対面にて行われた。詳細は議案書を参照のこと。

2. 総務報告<中村幸代理事>

議案書（p.10）に基づき報告があった。

会員推移については、2022年4月1日時点での正会員数9,389名、2022年度入会者は862名であった。2022年度死亡喪失者6名、会員区分の変更2名、名誉会員承認2名・物故者1名であり、2023年3月31日現在会員総数は、正会員10,243名、名誉会員は19名、賛助会員4件、会員総数10,266件であり、正会員数は漸増している。地区別正会員数は表に示した通りである。

3. 2022年度事業報告

議案書（p.15-32）に基づき、各担当理事より報告があった。

(1) 第42回日本看護科学学会学術集会開催<中村幸代理事>

- ・第42回日本看護科学学会学術集会（JANS42）を森山美知子学術集会会長のもと、2022年12月3日から12月4日の2日間、広島国際会議場他にて現地開催を中心にオンラインも含めたハイブリッドで開催した。メインテーマは「ケアサイエンスの構築に向けて看護科学の深化と発展」であり、参加者総数4,306名であった。
- ・最終演題数1,073題、市民公開講座「がんとともに、わたしらしく（演者：広島東洋カープ 赤松真人氏、広島大学大学院 宮下美香教授）」を実施。申し込みは199名であった。

(2) 第43回・第44回日本看護科学学会学術集会準備<中村幸代理事>

- ・第43回日本看護科学学会学術集会は、田中マキ子学術集会会長のもと、2023年12月9日から12月10日の2日間、海峡メッセ下関他にて実施予定である。メインテーマは「未来を拓く看護のサイエンス&アーツ：伝統と革新の融合」である。
- ・第44回日本看護科学学会学術集会は、前田ひとみ学術集会会長のもと、2024年12月7日から12月8日の2日間、熊本城ホールにて開催予定である。

(3) 和文誌編集委員会<宮下光令理事 代) 江藤宏美理事>

① 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

日本看護科学会誌42巻をオンラインで発刊した。2022年1月～12月の投稿数は、263編（前年は256編）であり、前年より増加している。採択論文数は、計101編、採択率は38.4%であった。また表彰論文の選考にも参画した。

② 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

2022年12月から新投稿規程を適用したため、投稿時は注意していただきたいとの報告があった。

③ 第42回学術集会にて交流集会「JANS和文誌の投稿規定・査読ガイドライン改訂の概要と最近の話題」を開催

2022年12月4日、広島市文化交流会館にて上記のとおり開催した。

(4) 英文誌編集委員会<江藤宏美理事>

① Japan Journal of Nursing Science (JJNS) の発行

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.19をオンラインで発刊した。2022年の投稿論文数は672編（前年は696編）であり、微減であった。
- ・ 表彰論文の選考にも参画した。
- ・ 2021年のImpact Factor は、1.691であった（2022年6月発表による）。第1回目の査読結果返却まで32日と努力している。

② 迅速査読の導入

2020年3月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した。2020年19編、2021年30編、2022年38編であり、年々増加している。

③ JJNSセミナーの開催

JJNSセミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2022をオンラインで開催した（2022年12月7日～2023年1月31日配信）。

④ 発刊20周年記念事業

JJNSの発刊20周年にあたり、これまでの活動の記念と発展を意図して、JJNS広報の一環としてJJNSバッジを制作した。第42回学術集会はじめ、EAFONS2023やその他、関連行事の際に配布するなど、JJNSの周知に活用した。

(5) 表彰論文選考委員会<亀井智子理事>

① 表彰論文の選考

- ・ 日本看護科学学会が発行する和文誌および英文誌から、優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。
- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文14編（和文6編・英文8編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文6編（和文3編・英文3編）を審査リストとして作成した。
- ・ 審査リストに基づき、全代議員、役員にメールにて採点を依頼。
- ・ 9月1日までに返信された191件について評価点の集計を行った。回収率は60.8%

(191/314) であった。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞2編、奨励賞2編を決定、理事会に報告し承認を得た。（表彰は学会総会（2022年12月3日 広島国際会議場）にて実施した）

【優秀賞】

- ・ Impact of intimate partner violence and childhood maltreatment on maternal – infant maltreatment: A longitudinal study
Sachiko Kita, Hiromi Tobe※, Kaori Umeshita※, Mayu Hayashi※, Kiyoko Kamibeppu
JJNS, 2021, Volume 18, Issue 1(e12373)
- ・ Damage to subcutaneous tissue at the catheterization site during chemotherapy: A prospective observational study using ultrasonography
Mari Abe-Doi, Ryoko Murayama, Atsuo Kawamoto※, Chieko Komiyama, Ardith Doorenbos※, Hiromi Sanada
JJNS, 2021, Volume 18, Issue 4(e12436)

※は非会員。本賞は会員のみ授与される。

【奨励賞】

- ・ 放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所における医療的ケア児受入の関連要因
大槻 奈緒子, 生田 花澄, 福井 小紀子
日本看護科学会誌 2021 年41 巻 p.29-36
- ・ 乳児との対面接触による妊婦の対児感情と不安への効果：ランダム化比較試験
園田 希, 高畑 香織, 堀内 成子
日本看護科学会誌 2021 年41 巻 p.449-457

② 他組織からの表彰候補者の推薦

日本学術振興会賞（第19回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、2名を推薦した。

③ 学術集会演題表彰の実施

第42回学術集会において演題表彰を実施した。賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は2段階で行った。第1段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用し、査読者2名以上による採点を行い、上位10名を選考した。第2段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会が採点をし、最終選考を行った。選考の結果、優秀演題口頭発表賞8件（うち最優秀賞1件）、若手優秀演題口頭発表賞8件（うち最優秀賞1件）、優秀演題ポスター発表賞9件（うち最優秀賞1件）、優秀演題抄録賞10件（うち最優秀賞1件）が選考された。

各賞の受賞者の詳細は議案書を参照のこと。

(6) 研究・学術推進委員会<深堀浩樹理事 代) 大久保暢子理事) >

① 委員会としての活動

- ・ 2022年より獲得支援を行っている「人々が抱える生きにくさの変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名：生きにくさの変容）」について、引き続き支援を行った。
- ・ 上記活動に加えて新たに「科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト

ト」を開始し、2件の応募があった。審査の結果、涌水理恵氏（筑波大学）が採択された。研究チームの構築支援、研究者同士の情報共有の機会の提供の支援を行っている。またこれらの活動に合わせ、委員会としての規定や申し合わせ事項の見直しを行っている。

② JANS セミナーの企画・開催

- ・第20回JANS セミナー「オープンサイエンスの進展と看護学の未来：オープンデータを看護学研究へ」をオンラインにより開催した（2022年6月27日～9月26日まで）。受講者数は、881名（会員862名・非会員9名・基礎教育課程学生10名）であった。

③ 第42回学術集会での交流集会の企画

- ・第42回学術集会において交流集会「看護学研究の発展を目指して：大型研究の準備・マネジメント・組織づくりから学ぼう！」を開催した。

④ オンラインジャーナルクラブ

社会貢献委員会、若手研究者活動推進委員会との委員会横断型事業として「オンラインジャーナルクラブの実施」について検討を行い、2022年3月2日にトライアルを実施し、その後2回、引き続きトライアルにて開催した。各回で約100名程度の参加申込があり、看護学生の参加もあった。今後のことは次期に申し送りたい。

⑤ その他の事業

JANSセミナーのアーカイブ化について、公開期間や発表者への確認事項（著作権等）等を検討し、理事会に報告し承認を受け、現在は公開中である。

(7) 看護ケア開発・標準化委員会<須釜淳子理事>

① モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き2017に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする

- ・社員に冊子体を送付し、日本語版はJANSのWebサイトで公開、英語版ガイドラインはJANSの英語版Webサイトで公開した。
- ・JJNS、日本看護科学会誌にガイドラインの一部が掲載された。
- ・2022年3月22日Minds ガイドラインライブラリに公開した。

② 2019年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

- ・ケアガイドラインを作成する活動について、引き続き2件の支援を行っている。

③ 2021年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

- ・外部評価が終了し、最終の冊子体に入稿の段階である。

④ 日本薬理学会との共同学術企画

- ・第96回日本薬理学会年会（2022年11月30日～12月3日 横浜）および第42回JANS学術集会において、それぞれ共催シンポジウムを開催した。
- ・「スコーピングレビュー インスリンボール」について、それぞれの学術集会で発表した。第43回学術集会においても発表予定である。

(8) 若手研究者活動推進委員会<仲上豪二郎理事>

① 委員会としての活動

- ・JANS若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は2023年3月現在で計891

名であり、2022年3月時点の788名より増加傾向である。

- ・日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信に随時努めている。

② JANS セミナーの開催

- ・第19回JANSセミナー「質の高い研究の統合からよりよい看護実践を導く：診療ガイドラインの作成と統合研究」（オンデマンド配信）を開催した（2022年3月23日～5月31日）。受講者数は262名（会員245名・非会員15名・基礎教育課程学生2名）であった
- ・第21回JANSセミナー「看護実践力を高めるDXの今とこれから：データ・デジタル技術の戦略的活用のヒントを学ぼう」（オンデマンド配信）の申込み・配信を2023年3月29日から開始した（～5月31日まで配信）。600名以上の参加登録があった。

③ JANS学術集会企画

- ・第42回学術集会の現地特別企画「集まれYoung Researchers！研究活動の共有・交流をはかろう」を開催した。全国各地の約80名の若手研究者が参加し、活発な意見交換がなされた。

④ COVID-19がJANS 会員の教育・研究活動に与えた影響の調査

- ・COVID-19看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を8名選出し、他の委員会との交流も活発に行っている。

⑤ エリア検討会開催支援

- ・JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2022年度に開催されたエリア検討会は、全国各地で計11回であった。それぞれの開催報告をJANS 若手の会ホームページ上に掲載し周知に努めた。

⑥ エリア・コーディネーター活動の活性化

- ・エリア・コーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANSエリア・コーディネーター用のSlackワークスペースを引き続き運営した。

⑦ 若手研究者の国際化に向けて

- ・世界看護科学学会（WANS）における、JANSとThailand Nursing and Midwifery Council (TNMC)、Korean Society of Nursing Science (KSNS)、The Indonesian National Nurses Association (INNA)との合同開催セミナー（2022年8月9日開催）において、若手研究者活動推進委員よりパネリストを選出した。

⑧ 他学会とのコラボレーション

- ・日本心理学会や看護理工学会等他学会とのコラボレーションを推進している。

⑨ 日本学術会議 報告書作成への参画

- ・日本学術会議より提出予定のDXに関する報告書作成に参画している。

委員会：常時Slackにてやりとりを実施し、必要事項について全体で共有している。

(9) 国際活動推進委員会（世界看護科学学会を含む）＜池田真理理事＞

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画している。

① 世界看護科学学会

- ・2022年1月にTNMC（Thailand Nursing and Midwifery Council）のTassana Boontong氏が理事長に就任し、WANS事務局の移行（日本→タイ）がスムーズに進行した。

- ・WANSセミナー：開催日時：2022年8月9日（火）日本時間15:00～18:00
JANSとThailand Nursing and Midwifery Council (TNMC)、Korean Society of Nursing Science (KSNS)、The Indonesian National Nurses Association (INNA)との共同企画でWANSセミナーをオンライン開催した。JANSからは若手研究者活動推進委員が発表した。事前登録者数215名であり、大変活発なセミナーとなった。
- ・第7回世界看護科学学会学術集会（WANS）2022年10月開催の4つの招待シンポジウムの中のEducation Sessionにおいて、JANSからは吉永尚紀氏が代表として発表した。

② 委員会企画 交流集会

- ・第42回学術集会で、交流集会「第7回 World Academy of Nursing Scienceにおける日本からのシンポジストに学ぶ、プレゼンテーションに伴う経験値の宝箱－The progress」を開催した（2022年12月4日8:55～9:55 広島市文化交流会館）。

③ 異文化看護データベース

異文化看護データベースの更新について以前より検討していたが、毎月平均300回のアクセスがあることが明らかになったため、随時更新していく方針とした。執筆者の募集を行った結果、24件の応募があり、委員会で検討の結果、13か国（ハンガリー、イギリス、オーストラリア、モロッコ、エルサルバドル、インドネシア、マレーシア、シンガポール、インド、ネパール、フィリピン、中国、バングラディッシュ）とイスラム教についての情報を更新した。

(10) 看護学学術用語検討委員会<大久保暢子理事>

① 看護学学術用語の電子システムの構築と公開

- ・過去の委員会で概念的統一を図り作成された100の用語、ならびに新用語追加を行い、会員への情報提供、会員の容易な活用ならびに普及のために電子システムを構築した。
- ・電子システムはJANSpediaと命名し、JANSホームページから簡便にアクセス可能とした。
- ・2022年4月から、既存の100の用語をJANSpediaに掲載した。
- ・JANSpediaの商標登録を行った。

② JANSpediaの新用語追加に対する募集要項等の作成と審査

- ・新用語を電子システム上に追加できるよう新用語の追加に関する募集要項、審査基準等を作成した。
- ・新用語の募集に関する広報を紙面ポスターならびに会員メーリングリストにて行い、募集を行った。
- ・申請された新用語について審査を行い、計8つの新しい用語をJANSpediaに掲載した。
- ・現在、さらに1用語の審査中であり、8つの新用語の英訳を進めている。

③ 第42回学術集会での交流セッションの開催

- ・第42回学術集会で交流集会「JANSpedia：あなたの看護学学術用語を登録しませんか？」を開催した（2022年12月3日16:00～17:00広島市文化交流会館）。

④ 日本看護協会主催「看護にかかわる用語の検討委員会」への参加

- ・上記委員会（2022年1月21日、5月6日、7月1日、8月23日、2023年2月13日）に参加し、看護で扱う用語について意見交換を行った。

(11) 社会貢献委員会<大久保暢子理事>

① 第42回学術集会において市民公開講座を開催

- ・第42回学術集会で市民公開講座「がんとともに、わたしらしく」を開催した。演者は、広島大学大学院医系科学研究科教授 宮下美香氏、広島東洋カープ二軍外野守備・走塁コーチ 赤松真人氏が行った。

② 次世代の看護学研究者育成事業の検討

- ・次世代の看護学研究者育成事業として、これまで中高生を対象に対面式開催であったナーシング・サイエンス・カフェを再検討した。今期より、次世代育成・発掘事業「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をテーマとして、中高生を対象に「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」の動画とWebサイトを立ち上げる計画を立案し理事会に承認された。
- ・「次世代研究者の発掘育成プロジェクト広報サイト」を立ち上げ、「看護学の研究者として生きる」をテーマに看護学研究者のドキュメンタリー動画を作成し、サイトならびにYouTubeよりフルバージョンとショートバージョンを一般公開している。
- ・上記サイトならびに動画を視聴した中高生を対象に、今後は交流会を開催し、次世代の看護学研究者の育成・発掘を目指していく。

③ オンラインジャーナルクラブの計画案の検討と試行

- 研究・学術推進委員会、若手研究者活動推進委員会との合同で会員対象にオンラインジャーナルクラブを開催した。

(12) 広報委員会<法橋尚宏副理事長>

① Webサイトの維持・管理・改善

- ・本会公式Webサイト（ホームページ）の維持・管理・更新、改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

② 学術集会等の広報活動

- ・第42回学術集会のプレスリリースの作成・配布、市民フォーラム（市民公開講座）の広報活動を行った。
- ・昨年度より、演題登録時に写真撮影の許可を得るためのチェックボックスを設け手続きを簡素化している。

③ 委員会成果物の公表

- ・JANS研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2022年度表彰論文の追加掲載を行った。

④ 広報用マスコットキャラクターの制作

- ・高校生以下を対象とした広報用学会マスコットキャラクターとして、「ジャンとスウ」を制作した。

⑤ デジタル広報の推進

- ・学会マスコットキャラクターを使用した高校生向けのデジタル広報媒体を6本制作し、委員会公式YouTubeチャンネルで公開した。今後学会Webサイトからリンク先として掲載される予定である。

- ・ Facebookページ、YouTubeチャンネル、会員向けのニューズレター等の基盤を整備した。

⑥ 日本看護科学学会の公式ロゴについて

- ・ 本会の公式ロゴ（ロゴマークとロゴタイプの組み合わせ）を整備した。学会Webサイトにもファイルを掲載済みである。

(13) 看護倫理検討委員会<手島恵理事 代)堀内成子理事長)>

研究倫理の遵守及び研究活動不正防止についての啓発活動や看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応策の検討に取り組んでいる。第42回学術集会では「SDGs×看護学・研究・倫理」についての交流集会を企画し実施した（映像はホームページから鑑賞可能）。また研究倫理に関するありかたを検討する必要性について理事会に報告した。

(14) 利益相反委員会<井上智子理事>

- ・ 役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントしている。
- ・ 日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の改正が理事会にて承認された。順次学会ホームページ等で公開される予定。
- ・ 和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・ セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・ 日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。

(15) 研究倫理審査委員会<井上智子理事>

- ・ 2021年3月～2022年3月までに3件の申請があり、前年度条件付きの回答をし、再提出後承認2件、申請受理に至らないとの判断により1件不受理とした。
- ・ 外部機関からの本学会研究倫理審査に関する問い合わせに対応した。

(16) 災害看護支援委員会<近藤暁子理事>

- ・ 看護系学会と連携し、情報収集や災害時の活動について検討している。
- ・ 災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしているが、今期は特に該当がなかった。
- ・ 「コロナ患者の対応を本務としていないJANS 会員（教員、大学院生など）のCOVID-19支援の現状及び所属機関からのサポートに関する調査」を実施した（調査期間は2022年7～8月）。調査内容の詳細については、別冊の報告書（p資-28～）を参照。現在英文誌への投稿準備を進めている。

(17) 若手研究者助成選考委員会<亀井智子理事>

- ・ 2020年からの準備委員会の活動を経て、2021年4月から若手研究者への助成を開始した。
- ・ 2021年度上期は3件の申請があり、2件の海外留学について助成を決定した。助成者から報告書が提出され、内容を確認後、受理とした。
- ・ 2022年度は申請がなかったが、2023年度に入り1件の申請があり、理事会にて審議し、海外留学について助成を決定している。

(18) 会則等委員会<石橋みゆき理事>

本委員会は、定款や各種規則や規程、申し合わせ等の見直しを通して本学会が公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行うことを目的として活動をしている。

① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

- ・研究助成等の新規事業の開始に伴い、その規則の内容についての点検と確認、また、会則変更等の内容が定款に及ぼす影響を検討した。

② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

- ・適宜、定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性を検討している。

(19) COVID-19 看護研究等対策委員会<須釜淳子理事>

- ・本委員会は、COVID-19 の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで設置された。
- ・第1回調査データを対象とした8件の論文を公開した。
- ・第2回目調査について検討を開始し（8月26日～）、新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員への研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（2回目）を2022年3月7日～3月31日にオンライン調査で行い、報告書（日本語版・英語版）をWebサイト上に公開した。
- ・第2回の調査データを対象とした、取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトを公募し、4件採択した。
- ・第1回・第2回の会員調査のデータを、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託した。現在申請準備中である。

(20) 総務委員会<中村幸代理事>

役割は学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理の実施である。

① 入会審査、会員管理の実施

- ・入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2022年度の入会審査数は、848名であった（2023年3月31日現在）。

② 学会事務所の運営

- ・事務所の老朽化に伴う移転のために、移転先の条件の整理・検索・検討をし、8月に移転をした。移転先はWebサイトやメール等で公開した。

(21) 研究助成選挙委員会（法橋副理事長）

本委員会は2022年6月に新設され、今期の理事会で新しく開始となった委員会である。

① 実施内容の検討、決定

- ・正会員（大学院生・ポストドクター）が行う挑戦的課題研究について、1件につき50万円、10件程度を助成する。
- ・正会員（除く大学院生・ポストドクター）が行う指定課題研究助成について、本学会から研究課題を指定するものであり、初回は「学際的・越境的なアプローチを用いた研究」で

あった。

- ② 規程（研究助成選考委員会の新設を含む）、細則、申し合わせ事項を作成し、理事会の承認、設置
- ③ 研究助成選考委員の提案と理事会承認
- ④ 内閣府公益認定等委員会への変更認定の申請（2022年3月30日）
- ⑤ 助成システム（申請・審査/選考・採択/不採択・報告等）の選定と構築
- ⑥ スケジュールに関する共有
 - ・ 2022年7月に募集、11月から選考、2023年3月に結果通知、4月に助成金の支払いを行った。
 - ・ 次年度の指定課題研究助成の指定課題が「看護実践のエビデンスを創出する研究」に決定し、来月以降に申請を開始する予定であることが共有された。

(22) 他機関との連携活動

- ① 日本看護系学会協議会（JANA）＜法橋尚宏副理事長＞
 - ・ 日本看護系学会協議会（JANA）の社員総会等に出席した。
 - ・ 医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2022年度は4名の会員を個別調査部会員に推薦した。
- ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）＜大久保暢子理事＞
 - ・ 令和6年度診療報酬改定に向けた第1回委員会に参加した。
 - ・ 【看保連】第15回情報交換会「エビデンスをもとに診療報酬を語る」のお知らせを会員メーリングリストにて行った。
 - ・ 看保連2023年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ3名の応募があり、社会貢献委員会で審査し2名が承認となった。
- ③ 日本学術会議＜法橋尚宏副理事長＞
 - ・ 日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。
- ④ その他の機関＜法橋尚宏副理事長＞
 - ・ 対応すべき事案はなかった。

(23) 選挙管理委員会＜中村幸代理事＞

議案書にあるとおり、2023年度選出代議員および役員候補者選挙について、滞りなくすべて終了し、5月19日の第1回理事会にて承認された。

[質疑応答]

質問：研究学術推進委員会のオンラインジャーナルクラブの活動内容を教えて欲しい。また、選択する英語論文の選定方法などのルールもあれば参考にしたい。

回答：最新の英論文の中で看護のテーマを1つ挙げ、1人の発表者が説明・解説し、参加者全員が内容を理解した上で、研究内容や分析方法等について参加者間でディスカッションする形をとっている。各回参加者が100名程度おり、全員でのディスカッションが難しいことから、ソフトウェアを活用し、小グループ（10名程度）によるディスカッション（40分程度）ができるよう工夫している。発表者に準備を含め負担がかかるため、謝礼を支払っている。英語論文の選定については細かなルールは今後と考えてお

り、まずは発表者の専門領域で英論文を選定し、その内容に興味のある会員がディスカッションすることで研究活動の向上の場となるようなトライアルをしているところである。(大久保理事)

質問：学会マスコットキャラクター「ジャンとスウ」はそれぞれが男女のキャラクターになっており、最近はそのような男女別ではないジェンダーフリーのものが多く、時代遅れのようにも思うが、このキャラクターにした理由を教えてください。

回答：「ジャンとスウ」は高校生以下を対象としたマスコットキャラクターで、父親や母親の設定があるのも対象が高校生以下であるからと考えている。広報委員会でもいくつかのパターンや服装についても検討しており、最近は高校や中学など、制服をスカートだけでなくズボンも選択できるなどの流れはあるが、公式マスコットキャラクターとして理事会でも承認され、ここに至っている。(法橋副理事長)

ここで、出席社員数299名(会場出席85名、委任状・議決権行使提出者214名)を確認した後、審議事項に移った。

V. 審議事項

第1号議案 役員選任案の承認について

議案書(p33)に基づき、以下の報告があった。

定款の規定により、理事及び監事の全員が本総会終結をもって任期満了となるため、選挙管理委員会からの報告の通り、電子投票の結果を基に役員候補者名簿が作成され、選挙管理委員会から理事会に提出された。理事会ではこれを参考に、役員選任案を作成した。

本日選任される役員は理事15名で任期は2年であり、監事は2名で任期は4年である。定款23条第4項により、役員を選任は社員総会において、候補者毎に決議を行うこととなっていることが説明され、議長が一人ひとりの名前を読み上げ決議を行った。

なお、決議に先立ち、理事候補15名について、選挙による理事11名と指名理事4名について議長から報告があった。本議案は以下のとおり承認可決した。

理事

有森 直子 氏(選挙による理事)

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

池田 真理 氏(選挙による理事)

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

井上 智子 氏(木戸 智子)(選挙による理事)

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

大久保暢子 氏(桑本 暢子)(選挙による理事)

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

鎌倉やよい 氏(選挙による理事)

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

萱間 真美 氏(選挙による理事)

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

グレッグ美鈴氏（選挙による理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

佐藤和佳子 氏（指名理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

田口 敦子 氏（指名理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

仲上豪二郎 氏（選挙による理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

西村 ユミ 氏（選挙による理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

山川みやえ 氏（指名理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

山本 則子 氏（選挙による理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

吉沢 豊子 氏（吉沢 豊予子）（選挙による理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

吉永 尚紀 氏（指名理事）

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

以上15名

監事

井部 俊子 氏

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

数間 恵子 氏

出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

以上2名

上記のとおり、すべての候補者が承認された。

定款第28条第1項および第2項の規定により、現理事と現監事が本定時社員総会終結をもって退任し、新理事と新監事が就任する。

第2号議案 2022年度決算の承認および会計監査の報告について

石橋みゆき会計担当理事から2022年度決算について議案書（p.34-46）に基づき説明があった。

34ページの貸借対照表について、流動資産合計額は153,638,667円で、前年度に比べ△13,201,158円となっている。また固定資産の特定資産は68,504,381円で選挙積み立て資金や研究助成資金が含まれている。その他の固定資産は10,248,716円で、前年度に比べ8,638,100円増加した。この理由は事務所の移転および研究助成システムの導入による増額である。流動資産と固定資産を合わせた資産合計は232,391,764円となり、負債合計34,366,430円を差し引いた正味財産合計は198,025,334円となった。

36～37ページの正味財産増減計算書は、1年間の経営状況を示している。正会員受取会費は会員増に伴い増加し102,490,000円が計上されている。また広島での第42回学術集会開催により、

学術集会収益45,186,000円、広告販売収益10,006,530円が大きな収益となった。結果、事業収益合計58,411,185円であり、前年度に比べ14,136,921円増加した。また経常収益の合計は前年度に比べ27,365,546円増加し172,729,911円となった。経常費用の会場費は、第42回学術集会が会場とオンラインのハイブリット開催となったため27,273,625円となり、23,878,709円増加している。遊休財産のハードルとされる事業費計は当年度155,049,693円、増減は前年度に比べ55,036,024円と大きく増加した。当年度の大きな特徴は、学会活動が活発に行われたことで事業費が増えている点である。37ページの管理費については、管理費計が26,352,337円であり、当期経常増減額は△8,672,119円であった。経常外増減について、事務所移転に伴い備品の廃棄費用2,829円が生じている。法人税、住民税及び事業税75,100円を引いた当期一般正味財産増減額は△8,750,048円となり、正味財産期末残高は当年度198,025,334円である。先に説明した貸借対照表の正味財産合計と同額であり正しく計上されていることがわかる。

38～39ページは、この正味財産増減計算書の内訳表である。まず正会員受取会費を予算通り公益目的事業会計と法人会計で5対5に振り分けて計上した。公益目的事業のうち、学術集会事業の経常収益計が48,723,000円であった。また公益目的事業の小計の事業費計は153,438,663円で、これに収益事業等会計を加算した事業費計は155,049,693円で、先ほど説明した正味財産増減計算書の事業費計と同額となっている。また、収益事業等会計の広告販売事業の当期計上増減額は8,832,771円で、通常はこの金額に法人税がかかることとなっているが、JANSは認定の公益社団法人であり、ルールにより8,633,257円を公益目的事業に振り替えることができるため、経常外費用とこの差額の199,492円に課税されることになる。なお、正味財産期末残高合計は198,025,334円となり、貸借対照表の正味財産合計金額および、正味財産増減計算書の正味財産期末残高と一致している。

44～45ページは従来使用していた収支計算書で、資金の動きが確認できる資料である。事業活動収入の会費収入は99,970,000円であった。これは会計年度中に実際に入金された金額が記載されているため、正味財産増減計算書内訳表とは金額に差異が生じている。この表の補足にある各※を参照いただきたい。なお、具体的には以下の説明があった。

【事業活動収入について】

- ・正会員会費収入は99,720,000円が計上されている。
- ・賛助会員会費収入は（株）日本看護協会出版会2口、（株）医学書院、（株）南江堂、（株）へるす出版が各1口で、計250,000円を計上した。
- ・学術集会事業収入は、48,723,000円であり、第42回学術集会の参加者4,306名の大きな収入となった。
- ・収益事業等収入は10,006,530円、事業活動収入合計の実績額は169,959,911円であった。

【事業活動支出について】

- ・公益目的事業支出の計は119,790,615円、うち、委員会費等の学術振興事業支出は10,592,282円となった。
- ・看護ケア開発・標準化委員会支出はガイドライン2件の作成を2023年度に繰り越したため、執行額が少なくなった。
- ・今期新たに立ち上げた研究助成選考委員会費支出は、助成業務サポートシステム導入費用・利用料等で、4,736,048円となった。
- ・学会誌事業支出は和文誌と英文誌で35,680,480円となった。

- ・ 学術集会費支出はハイブリット開催のため、会場とオンラインでの費用がかかった。
- ・ 管理費支出は61,384,351円、事業活動収支差額は△13,430,155円となった。

また、45ページの太枠箇所の表記に誤りがあり、「2022年度補正予算額」ではなく「2022年度実績額」である旨が説明された。

46ページは各収入と事業費のグラフを示している。収入として大きいのは会費収入および学術集会収入である。支出としては学術集会開催費用、学会誌発行費支出、学術活動委員会費が主な支出である。

決算説明後、村嶋監事から資料（47～50ページ）に基づき、会計監査の報告があった。

監査は、南監事、村嶋監事の2名で、石橋理事、有田事務所長、経理職員、中村コンサルティングオフィスの中村公認会計士の立ち会いのもと、4月28日に法人事業所において、当該事業年度に関わる業務及び財産の状況を、財務諸表および収支計算書、法人の財産および損益の状況等、関連する資料の提示を受けて監査した。

なお、監査に先立ち、両監事は、理事会及びその他重要な会議に出席し、理事及び職員と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境整備に努めるとともに、理事及び職員から職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類を閲覧した。

その結果、事業報告及び会計報告は、法人の状況を正しく示しているものと認めたこと、財務諸表の監査結果に関しては、すべての重要な点において、適切に表示しているものと認めることが報告された。

議長は2022年度決算について意見や質問を促したが特になく、本件の承認の可否を求め、出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

第3議案 名誉会員の承認について

堀内理事長より、名誉会員について、定款上の規定および名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項に従い、今村節子氏、小山真理子氏、島内節氏の3名の推薦である旨の説明がなされ、議長は、名誉会員の承認に関して意見や質問を促したが特になく、本件について承認の可否を求めたところ、出席社員の議決権の過半数の賛成により承認された。

VI. 理事会からの報告

今後の役割検討のため、堀内成子理事長より、今期（2021～2022年度）活動・評価報告書（冊子）の説明がなされた。

本報告書は今期の活動の可視化及び今後の活動継続を目的として作成をした。報告書作成にあたり、各委員会担当理事には、2年間の目標の具体的な立案を依頼し、成果と評価をまとめて報告をもらった。また、写真や図表等を含めることで、わかりやすくなるよう作成した。

- ・ 研究助成に関しては、助成システムの導入にあたり、複数社から検討・選定し決めた。
- ・ 研究助成には当初100件程度、申請用のマイページが作成され、多くの問い合わせもあったが、最終的な申請者は挑戦的課題研究助成が28件、指定課題研究助成が15件であった。すでに2023年となり、助成金の支給も済み、研究が進んでいるところである。
- ・ JANS看護学学術用語を掲載する電子システム「JANSpedia」の構築も今期の新たな取り組み

である。

- ・広報委員会では高校生以下を対象としたマスコットキャラクターを作成、また、使用に関するルールもなかったJANSロゴや字体も整理しホームページに公開した。
- ・その他、各委員会の資料や成果物を掲載している。なお本報告書について、社員には冊子を配布しており、会員には冊子の配布ではなく、学会ホームページにて閲覧可能な形にする予定である。

[質疑応答]

なし

Ⅶ. その他

2023年12月9日・10日開催の第43回学術集会の田中マキ子会長より、以下の挨拶があった。

このたび、山口県下関市にて開催する運びとなった。6月16日（金）に演題募集を締め切ったところ、1,130演題（口頭373演題、交流集会73演題）の応募があった。これから査読等を進めるが、多くの発表が叶う形になると思う。

代議員の先生方には座長のお願いをする可能性があるため、ぜひご協力をお願いしたい。また宿泊先が不足する可能性があるため、早めに対応をお願いしたい。実りある満足度が高まる学会となるよう準備を進めていく所存である。

Ⅷ. 閉会

出席者は本会全社員340名中、会場参加者と有効委任状および議決権行使で、有効出席者数299名であったことの報告があり、2023年6月定時社員総会は閉会した。

閉会后、吉沢豊予子新理事長より以下の挨拶があった。

これまで日本看護科学学会は日本の看護学を牽引し、アンブレラ学会としての役割を担ってきた。その中で看護の知の創造に力を入れ、ここ数年では看護の知の具現化にも力を入れている学会であり、この看護の知の創造と具現化が良い循環をし始めていると思う。今後それらを担う若手研究者の育成や多くの事業について、今後も絶えることなく維持・継続していきたい。また現在ポストコロナにある中でDX化が進んでいる。Society 5.0とも言われているが、このDX化は第5世代に入っており、まさにAIの時代である。このAIと看護がどのように連動、協働、連携していくのか、そしてそこから生まれる看護が何なのかを今後も考えてきたい。また看護は感情労働であるが、そこまで立ち入らないと思っていたAIも感情労働に入りこんでいる。その中で看護がどうあるべきか、そこで行われるケアが何かを含め、思考していく学会を目指して取り組んでいきたい。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、
記名押印する

2023年 7月 27日

議 長 堀内 成子 ⑩

議事録署名人 佐伯 由香 ⑩

議事録署名人 樋之津 淳子 ⑩

⑩

⑩

⑩

公益社団法人日本看護科学学会 2023年6月定時社員総会 議案書

日 時 2023年6月18日(日) 13:00~15:30(予定)

場 所 AP 東京八重洲 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-10-7KPP 八重洲ビル 11階

【議事次第】

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 議長指名および議事録署名人の承認
- IV. 報告事項
 1. 理事会および社員総会報告
 2. 総務報告
 3. 2022年度事業報告
 - (1) 第42回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第43回・第44回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌編集委員会
 - (4) 英文誌編集委員会
 - (5) 表彰論文選考委員会
 - (6) 研究・学術推進委員会
 - (7) 看護ケア開発・標準化委員会
 - (8) 若手研究者活動推進委員会
 - (9) 国際活動推進委員会
 - (10) 看護学学術用語検討委員会
 - (11) 社会貢献委員会
 - (12) 広報委員会
 - (13) 看護倫理検討委員会
 - (14) 利益相反委員会
 - (15) 研究倫理審査委員会
 - (16) 災害看護支援委員会
 - (17) 若手研究者助成選考委員会
 - (18) 研究助成選考委員会
 - (19) 会則等委員会
 - (20) COVID-19 看護研究等対策委員会
 - (21) 総務委員会
 - (22) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の機関
 - (23) 選挙管理委員会
- V. 審議事項
 - 第1号議案 役員候補者の承認
 - 第2号議案 2022年度決算の承認および会計監査の報告
 - 第3号議案 名誉会員の承認
- VI. 理事会(2021-2022)からの報告
- VII. 閉会

公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 堀内 成子

副理事長 法橋 尚宏

理事：池田 真理、石橋 みゆき、井上 智子、江藤 宏美、大久保 暢子、
亀井 智子、近藤 暁子、須釜 淳子、手島 恵、仲上 豪二郎、中村 幸代、
深堀 浩樹、宮下 光令

監事：南 裕子、村嶋 幸代

名誉会員

阿曾 洋子、稲岡 文昭、氏家 幸子、金川 克子、川嶋 みどり、川村 佐和子、
小島 操子、小玉 香津子、近藤 潤子、新道 幸恵、中島 紀恵子、中村 恵子、
林 滋子、林 優子、樋口 康子、菱沼 典子、松野 かほる、矢野 正子、山崎 智子

賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2023年4月10日現在)

日本看護科学学会学術集会会長

第43回学術集会会長 第44回学術集会会長 第45回学術集会会長

田中 マキ子

前田 ひとみ

有森 直子

社員

【北海道】

青柳 道子
上田 泉
河口 てる子
川村 三希子
今野 美紀
定廣 和香子
澤田 いずみ
城丸 瑞恵
鷺見 尚己
照井 レナ
長谷川 真澄
樋之津 淳子
三国 久美
山田 律子

【東北】

アングアホッフ
ア 司寿子
安齋 由貴子
安保 寛明
大森 純子
角濱 春美
金子 さゆり
菅野 恵美
小林 淳子
坂本 祐子
佐藤 富美子
佐藤 和佳子
塩飽 仁
高橋 和子
高橋 有里
鄭 佳紅
中村 康香
福島 裕子
藤田 あけみ
布施 淳子
吉沢 豊予子

【関東A】

栗生田 友子
安梅 勅江
飯岡 由紀子
池内 彰子
牛久保 美津子
大澤 真奈美
岡 美智代
恩幣 宏美
角田 直枝
金泉 志保美

上山 真美
國清 恭子
近藤 由香
齋藤 基
清水 裕子
鈴木 幸子
高井 ゆかり
成田 伸
野崎 真奈美
橋本 晴美
東 めぐみ
堀越 政孝
松田 安弘
水野 道代
村井 文江
山下 暢子

吉田 久美子
涌水 理恵

【関東B】

有本 梓
池崎 澄江
石井 邦子
石丸 美奈
岡田 忍
小黒 道子
落合 亮太
数間 恵子
勝山 貴美子
叶谷 由佳
川名 るり
黒田 久美子
斉藤 しのぶ
酒井 郁子
櫻井 しのぶ
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
茂野 香おる
島袋 香子
清水 準一
諏訪 さゆり
高橋 良幸
谷口 千絵
谷本 真理子
田母神 裕美
中山 登志子
別府 千恵
水戸 優子
宮崎 美砂子

宮芝 智子
宮本 千津子
宮脇 美保子
村上 明美
村中 陽子
森 明子
湯浅 美千代
吉田 澄恵
和住 淑子
渡邊 千登世

【東京A】

麻原 きよみ
五十嵐 歩
池田 真理
井部 俊子
大久保 暢子
大田 えりか
奥 裕美

小山田 恭子
片岡 弥恵子
北村 言
坂本 すが
佐々木 美奈子
習田 明裕
鶴若 麻理
仲上 豪二郎
中山 和弘
西村 ユミ
林 直子
春名 めぐみ
宮本 有紀
麦田 裕子
山本 則子
吉岡 京子
米澤 かおり

【東京B】

秋山 正子
池亀 俊美
井村 真澄
井本 寛子
江本 リナ
岡谷 恵子
小川 久貴子
小澤 三枝子
萱間 真美
川原 由佳里
来生 奈巳子
草間 朋子

小林 信
坂井 志麻
佐藤 正美
田中 孝美
筒井 真優美
寺岡 征太郎
野末 聖香
濱田 由紀
福井 トシ子
藤田 淳子
本田 彰子
三浦 英恵
森 千鶴
森 真喜子
矢ヶ崎 香
矢富 有見子

【甲信越】

浅野 美礼
有森 直子
内山 美枝子
小林 康江
坂井 さゆり
下里 誠二
竹内 幸江
谷口 珠実
中込 さと子
八尋 道子
山崎 章恵
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子
大江 真琴
大栗 麻由美
表 志津子
加藤 真由美
川島 和代
紺家 千津子
多崎 恵子
田中 浩二
牧野 智恵
四谷 淳子

【東海】

秋山 智弥
浅野 みどり
安藤 詳子
市江 和子
宇城 令
大石 ふみ子

大島 千佳
大島 弓子
大津 廣子
岡田 摩理
片岡 純
片岡 三佳
片山 はるみ
鎌倉 やよい
木戸 芳史
小松 万喜子
坂本 真理子
佐藤 一樹
佐藤 直美
篠崎 恵美子
白尾 久美子
白鳥 さつき

高植 幸子
玉田 章
辻川 真弓
新家 一輝
野口 眞弓
服部 淳子
原沢 優子
藤井 徹也
藤野 あゆみ
操 華子
箕浦 哲嗣
百瀬 由美子
山田 聡子
脇坂 浩
渡井 いずみ
渡邊 順子

【近畿A】

青山 ヒフミ
赤澤 千春
東 ますみ
荒尾 晴恵
池田 清子
池西 悦子
井上 智子
ウィリアムソン 彰子
上野 昌江
内 正子
宇都宮 明美
大野 かおり
大野 ゆう子
勝原 裕美子

加藤 令子
神崎 初美
北村 愛子
久米 弥寿子
グライナー 智恵子
河野 あゆみ
小西 美和子
近藤 麻理
坂下 玲子
鈴木 志津枝
瀬戸 奈津子
高橋 弘枝
高見沢 恵美子
田中 京子
玉木 敦子
都筑 千景
二宮 啓子
林 千冬
武用 百子
細田 泰子
前川 幸子
宮脇 郁子
森 菊子
安酸 史子
山川 みやえ
山崎 あけみ
山本 あい子

【近畿B】

吾妻 知美
荒川 千登世
糸島 陽子
伊波 早苗
上野 栄一
荻田 美穂子
片山 由加里
黒江 ゆり子
竹之内 沙弥香
田村 恵子
當日 雅代
奈良間 美保
任 和子
野島 敬祐
本田 可奈子
光木 幸子
毛利 貴子
吉岡 さおり

【中国・四国】

吾郷 美奈恵	竹熊 千晶
畦地 博子	田中 美智子
井伊 久美子	谷口 初美
池添 志乃	藤内 美保
石橋 照子	中尾 久子
市原 多香子	野間口 千香穂
伊東 美佐江	橋口 暢子
今井 多樹子	鳩野 洋子
岩佐 幸恵	花田 妙子
大川 宣容	濱田 裕子
大平 光子	平野 かよ子
岡田 淳子	藤野 成美
折山 早苗	藤野 ユリ子
久保田 聰美	増満 誠
黒田 寿美恵	益守 かづき
佐伯 由香	三重野 英子
陶山 啓子	三橋 睦子
高瀬 美由紀	宮園 真美
田中 愛子	宮林 郁子
田中 マキ子	村田 節子
谷垣 静子	分島 るり子

以上、340名
地区別
五十音順

田村 由美
永井 眞由美
中野 綾美
名越 恵美
野嶋 佐由美
原 祥子
百田 武司
深井 喜代子
深田 美香
松本 啓子
森下 安子
森本 美智子
山勢 博彰
山田 覚

【九州・沖縄】

穴井 めぐみ
飯野 英親
江藤 宏美
尾形 由起子
金岡 麻希
神里 みどり
木下 由美子
倉岡 有美子
グレッジ 美鈴
黒田 裕美
末次 典恵

(2023年2月28日現在)

公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

2022年度第1回理事会

日時：2022年5月20日（金）13：00～15：30

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事14名、監事2名、第42回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第42回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
2. 選挙管理委員の選定について
3. 総務会からの提案・報告
4. 2022年6月定時社員総会の議案の承認と進行の確認
5. 各委員会からの報告および審議事項
 - 1) 和文誌編集委員会
 - 2) 英文誌編集委員会
 - 3) 表彰論文選考委員会
 - 4) 研究・学術推進委員会
 - 5) 看護ケア開発・標準化委員会
 - 6) 若手研究者活動推進委員会
 - 7) 国際活動推進委員会
 - 8) 看護学学術用語検討委員会
 - 9) 社会貢献委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 看護倫理検討委員会
 - 12) 利益相反委員会
 - 13) 研究倫理審査委員会
 - 14) 災害看護支援委員会
 - 15) 若手研究者助成選考委員会
 - 16) 会則等委員会
 - 17) COVID-19看護研究等対策委員会
 - 18) 研究助成選考委員会
 - 19) 総務委員会
 - 20) 他団体との連携について

- ① 日本看護系学会協議会
 - ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の団体
6. 入会希望者の承認
 7. その他

書面理事会

日 時：2022年5月24日（火）

（理事会の決議があったものとみなされた日：2022年5月26日）

出席者：理事15名

〈審議事項〉

「定款の一部変更を定時社員総会の議案に加える」ことについて

2022年度第2回理事会

日 時：2022年6月19日（日）10：00～10：55

場 所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事15名、監事2名 第42回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第42回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
2. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）企画委員名簿の提出
3. 研究助成の認定について
4. 事務所移転について
5. 2022年6月定時社員総会の議案と進行分担表の確認
6. 委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
7. 入会希望者の承認
8. その他

2022年度第3回理事会

日 時：2022年8月31日（水）13：00～15：17

場 所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所ほか

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事13名、監事2名、第42回学術集会会長、第43回学術集会会長、選挙管理委員長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
2. 第42回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
3. 2023年代議員選挙および2023年選出役員候補者選挙について
4. 総務会からの提案・報告
5. 2022年12月社員総会と第42回学会総会について
6. 会計報告（各委員会予算執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認
9. その他

2022年度第4回理事会

日時：2022年10月21日（金）13：00～15：00

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所ほか

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事15名、監事1名、第42回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第42回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
2. 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 12月社員総会の議案の承認、進行の確認
5. 第42回学会総会の議案の承認、進行の確認
6. 会計報告（2022年度委員会活動費執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認

2022年度第5回理事会

日時：2022年12月2日（金）14：00～15：30

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

出席者：理事15名、監事2名

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案について
2. 2022年12月社員総会の資料と進行の確認
3. 第42回学会総会の資料と進行表の確認

4. 各委員会からの審議事項
5. 入会希望者の承認
6. その他

2022 年度第 6 回理事会

日 時：2023 年 2 月 17 日（金）13：00～15：34

場 所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所ほか

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14 デイアモンドビル 6 階）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 42 回学術集会会長、第 43 回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）報告
2. 第 43 回日本看護科学学会学術集会（JANS43）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 2022 年度決算見込みと会費配分率および予算執行状況について
5. 各委員会からの報告および審議事項
6. 2023 年 6 月定時社員総会の開催について
7. 入会希望者の承認
8. その他

公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

2022年6月定時社員総会

日時 2022年6月19日(日) 11:00～12:42

場所 オンライン開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

総社員数: 312名

出席社員数: 284名 (オンライン出席 127名 委任状 137名 議決権行使 20名)

I. 開会

II. 理事長挨拶

(英文誌編集長: William L. Holzemer氏, RN, PhD, FAAN 挨拶あり)

III. 議長指名および議事録署名人の承認

IV. 報告事項

1. 理事会および社員総会報告

2. 総務報告

3. 2021年度事業報告

(1) 第41回日本看護科学学会学術集会開催

(2) 第42回・第43回日本看護科学学会学術集会準備

(3) 和文誌編集委員会

(4) 英文誌編集委員会

(5) 表彰論文選考委員会

(6) 研究・学術推進委員会

(7) 看護ケア開発・標準化委員会

(8) 若手研究者活動推進委員会

(9) 国際活動推進委員会 (世界看護科学学会を含む)

(10) 看護学学術用語検討委員会

(11) 社会貢献委員会

(12) 広報委員会

(13) 看護倫理検討委員会

(14) 利益相反委員会

(15) 研究倫理審査委員会

(16) 災害看護支援委員会

(17) 若手研究者助成選考委員会

(18) 会則等委員会

(19) COVID-19 看護研究等対策委員会

(20) 総務委員会

(21) 新規事業: 研究助成の実施に関する準備

(22) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会 (JANA)

② 看護系学会等社会保険連合 (看保連)

③ 日本学術会議

④ その他の機関

(23) 選挙管理委員会

V. 審議事項

第1号議案 2021年度決算の承認および会計監査の報告

第2号議案 2022年度事業計画の変更(案)と補正予算(案)について

第3号議案 第45回学術集会会長について(2025年開催)

第4号議案 名誉会員の承認について

- 第5号議案 定款の一部変更について
- VI. その他
- VII.閉 会

2022年12月社員総会

日 時 2022年12月2日(金) 16:00~18:00

場 所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

総社員数: 312名

出席社員数: 275名(当日出席 37名、委任状 225名、議決権行使 13名)

- I. 開 会
- II. 理事長挨拶
- III. 第42回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶
- IV. 議長指名および議事録署名人の承認
- V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告
- VI. 審議事項
 - 第1号議案 2022年度補正予算(2次・案)の承認
 - 第2号議案 2023年度事業計画(案)の承認
 - 第3号議案 2023年度予算(案)の承認
- VII. 閉 会

総務報告

1. 会員推移 (2022年4月1日～2023年3月31日)

1) 正会員数増減

①2022年4月1日正会員数

9389名 = 2022年3月31日正会員数10041名 - 2022年度資格喪失者652名
(自主退会419名、会費未納233名)

②2022年度の入会者

862名 = 新規入会767名 + 再入会95名

③2022年度の死亡喪失者 6名

④会員区分の変更 あり 2名

2) 賛助会員増減 なし

3) 名誉会員 承認 2名

物故者 1名

4) 2023年3月31日現在 会員数

正会員 10,243

名誉会員 19

賛助会員 4

会員総数 10,266

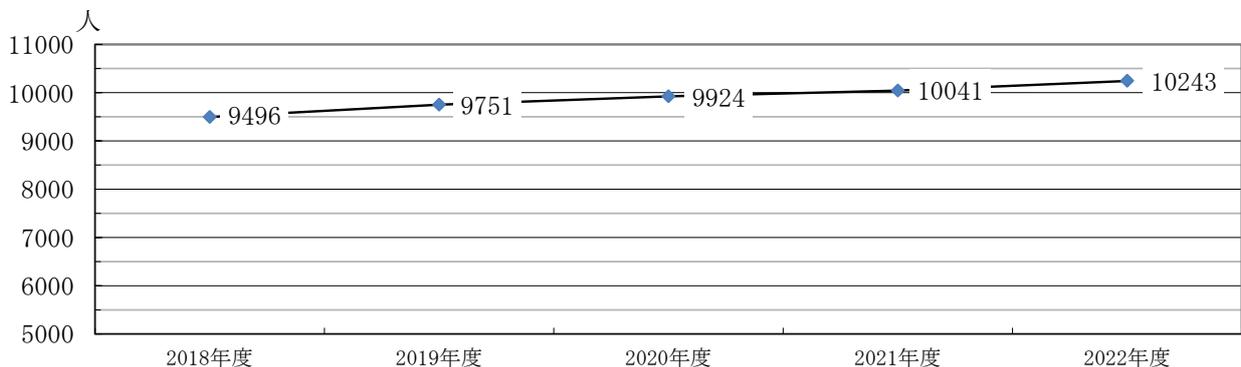
2. 地区別正会員数 (2023年4月1日 会員数9,531名 ←10,243名※1-712名※2※3)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道	北海道	382	北陸	富山	92	九州・沖縄	福岡	459	
	東北	青森		122	石川		166	佐賀	49
岩手		85		福井	67		長崎	69	
宮城		163	東海	静岡	192		熊本	72	
秋田		64		愛知	537		大分	51	
山形		59		岐阜	190		宮崎	69	
福島	48	三重		154	鹿児島		52		
関東A	茨城	135		近畿A	大阪		625	沖縄	85
	栃木	120	1160	兵庫	535	宛先不明者		26	
	群馬	169	近畿B	滋賀	102	合計		9,531	
	埼玉	349		京都	246	※1 2023/3/31会員数 ※2 新年度資格喪失者 ※3 自主退会435会費未納277			
関東B	千葉	532	奈良	99					
	神奈川	589	和歌山	56					
東京A	※1	671	中国・四国	鳥取	43				
	東京B	※2		762	島根				53
甲信越		新潟		113	岡山				174
	長野	134		広島	293				
	山梨	74		山口	58				
甲信越	山梨	74		967	徳島				61
	新潟	113			香川				64
	長野	134			愛媛	96			
甲信越	山梨	74	高知		125				

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移 (年度別)



公益社団法人日本看護科学学会 委員会名簿

※2023年4月21日現在の会員登録データに基づいています

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長	宮下 光 令	東北大学大学院
	編集長	河野 あゆみ	大阪公立大学大学院
	編集長	春名 めぐみ	東京大学大学院
		會田 信子	信州大学
		飯岡 由紀子	埼玉県立大学
		宇佐美 しおり	PAS心理教育研究所 研究員
		落合 亮太	横浜市立大学
		小野 若菜	聖路加国際大学
		梶井 文子	東京慈恵会医科大学
		片山 はるみ	姫路大学
		勝山 貴美子	横浜市立大学
		キタ 幸子	東京大学大学院
		佐藤 伊織	東京大学大学院
		瀬戸 奈津子	関西医科大学
		征矢 野あや	京都橘大学
		田中 真琴	東京医科歯科大学大学院
		玉木 敦子	神戸女子大学
		鶴若 麻理	聖路加国際大学
		成瀬 昂	SOMPOインスティテュートプラス株式会社
	英文誌編集	委員長	WILLIAM L. HOLZEMER
編集長		江藤 宏美	長崎大学
理事		堀内 成子	聖路加国際大学
		近藤 暁子	東京医科歯科大学
		朝倉 京子	東北大学大学院
		池田 理恵	和歌山県立医科大学
		池松 裕子	修文大学
		石原 逸子	神戸市看護大学
		梅田 麻希	兵庫県立大学
		加藤 憲司	神戸女子大学
		北岡 和代	公立小松大学
		グライナー 智恵子	神戸大学大学院
		グレッグ 美鈴	名桜大学大学院
		コリー 紀代	北海道大学大学院
		齋藤 あや	新潟大学
		佐藤 奈保	千葉大学
		千葉 由美	横浜市立大学
		千野 理恵	京都大学大学院
		月野 木ルミ	東京医科歯科大学
		角田 美秋	東京有明医療大学
	中村 美真	東京慈恵会医科大学	
	野口 喜代子	日本赤十字豊田看護大学	
	深井 君支	東京慈恵会医科大学	
	藤田 山昭	九州大学	
	丸山 華子	松陰大学	
	操山 けみ	静岡県立大学	
	山吉 永尚	大阪府立大学	
	朝澤 恭子	東京医療保健大学	

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
研究助成選考	委員長 理事 理事 理事 外部委員	法橋尚宏 井上智宏 大久保暢子 近藤暁子 中村幸彦 丹野義彦	神戸国際医療福祉大学 聖路加国際歯科大学 東京医科大学 横浜市立大学 日本医科大学
会則等	委員長 理事 理事 理事 計	石橋みゆき 井上智恵子 手宮光令 宮大真琴 大江真子	千葉大学 千葉大学 千葉大学 千葉大学 千葉大学
COVID-19 看護研究等対策	委員長 理事 理事 理事	須池淳子 池上豪朗 仲深堀佳樹 加澤洋子 新田マキ子 田友滝一 横吉永尚 吉永尚紀	藤田医科大学 東京大学 慶應義塾大学 岡山大学 広島県立大学 山梨県立大学 東京医科大学
総務	委員長 理事	中村幸代理 池田田智子 永田田智子	横浜市立大学 東京応義塾大学
選挙管理	委員長	武村雪絵 香春知永 河野あゆみ 佐藤由美子 長江弘子	東京大学医学部 大阪公立大学 大阪府立大学 大群亀田医療大学

公益社団法人 日本看護科学学会 2022 年度事業報告

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

(1) 第 42 回日本看護科学学会学術集会開催

- ・第 42 回日本看護科学学会学術集会 (JANS42) を森山美知子学術集会会長のもと、2022 年 12 月 3 日から 12 月 4 日の 2 日間、広島国際会議場他にて現地開催を中心とし、一部ハイブリッドで開催した。メインテーマは「ケアサイエンスの構築に向けて看護科学の深化と発展」、参加者総数 4,306 名であった。
- ・最終演題数 1,073 題 (口演 383 題、示説 574 題、English Session 32 題、English Poster Session 24 題、交流集会 56 件、N-AGORA 4 件)、ランチョンセミナー 8 件。
- ・市民公開講座「がんとともに、わたしらしく」演者：赤松真人氏 (広島東洋カープ)、宮下美香先生 (広島大学大学院) を開催した。申込人数：199 名 (オンライン 78 名：現地 121 名) であった。

(2) 第 43 回・第 44 回日本看護科学学会学術集会準備

- ・第 43 回日本看護科学学会学術集会 (JANS43) を田中マキ子学術集会会長のもと、2023 年 12 月 9 日・10 日の 2 日間、海峡メッセ下関他にて開催予定である。メインテーマは「未来を拓く看護のサイエンス&アーツ：伝統と革新の融合」である。一般演題募集は、2023 年 6 月 16 日 (金) 正午で終了し、参加申し込みは 9 月 15 日 (金) 正午がメ切である (6 月 18 日現在)。
- ・第 44 回日本看護科学学会学術集会 (JANS44) を前田ひとみ学術集会会長のもと、2024 年 12 月 7 日・8 日の 2 日間、熊本城ホールにて開催予定である。

(3) 和文誌編集委員会 (宮下光令理事)

学会誌 (日本看護科学会誌) の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

① 日本看護科学会誌 (電子ジャーナル) の発刊

- ・日本看護科学会誌 42 巻をオンラインで発刊した。
- ・2022 年 1 月～12 月の投稿数は、263 編であった (前年は 256 編)。
- ・第 42 巻 (2022 年 1 月～12 月) 随時掲載の論文数は、論壇 0 編、総説 7 編、原著論文 80 編、短報 0 編、資料 14 編、その他 0 編の計 101 編であった (前年は、論壇 1 編、総説 7 編、原著論文 81 編、短報 2 編、資料 14 編、その他 0 編の計 105 編)。2022 年 1 月～12 月における採択率は 38.4% であった。
- ・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・表彰論文選考に参画した。

② 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

- ・投稿規程等を全面的に見直し、2022 年 12 月から新投稿規程を適用した。
- ・2016 年から 2021 年までの投稿・採択・査読日数を集計し、まとめたものを委員会報告として日本看護科学会誌に投稿した。

③ 第 42 回学術集会にて交流集会「JANS 和文誌の投稿規程・査読ガイドライン改定の概要と最近の話題」を開催

(2022 年 12 月 4 日、14:55~15:55 広島市文化交流会館)。

委員会開催：2 回 (2022 年 4 月 4 日：オンライン、2022 年 12 月 3 日：対面)

(4) 英文誌編集委員会 (江藤宏美理事)

日本から世界へ学術情報を発信するため 2004 年から英文誌 (Japan Journal of Nursing Science「JJNS」) の発行を開始、2014 年からは online-only journal として、年 4 回の発行を実施。また JJNS セミナーも開催。

① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.19 をオンラインで発刊した。
- ・ 2022 年の投稿論文数は、672 編であった (前年は 696 編)。
- ・ 表彰論文選考に参画した。
- ・ 2021 年の impact factor は、1.691 であった (2022 年 6 月発表による)。

② 迅速査読希望の状況

2020 年 3 月、Fast Track Review (迅速査読) の受付を開始した (博士号の学位申請、または博士号取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象)。

(2020 年 19 編・2021 年 30 編・2022 年 38 編)

③ JJNS セミナーの開催

JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2022 をオンラインで開催した (2022 年 12 月 7 日~2023 年 1 月 31 日配信)。

④ 発刊 20 周年記念事業

JJNS バッジの制作：

JJNS の創刊より 20 年目にあたり、これまでの活動の記念と発展を意図して、JJNS 広報の一環として制作した。第 42 回学術集会はじめ、EAFONS2023 やその他、関連行事の際に配布した。

委員会開催：3 回 (2022 年 6 月 18 日、11 月 5 日、2023 年 3 月 18 日)

(5) 表彰論文選考委員会 (亀井智子理事)

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から、優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 14 編 (和文 6 編・英文 8 編) の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文 6 編 (和文 3 編 英文 3 編) を

審査リストとして作成した。

- ・2022年7月25日に、全代議員、役員314名にメールにて採点を依頼した。
- ・9月1日までに返信された191件について評価点の集計を行った。回収率60.8%(191/314)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞2編、奨励賞2編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

【優秀賞】

- ◆ Impact of intimate partner violence and childhood maltreatment on maternal – infant maltreatment: A longitudinal study
Sachiko Kita, Hiromi Tobe※, Kaori Umeshita※, Mayu Hayashi※, Kiyoko Kamibeppu
JJNS, 2021, Volume 18, Issue 1(e12373)
- ◆ Damage to subcutaneous tissue at the catheterization site during chemotherapy: A prospective observational study using ultrasonography
Mari Abe-Doi, Ryoko Murayama, Atsuo Kawamoto※, Chieko Komiyama, Ardith Doorenbos※, Hiromi Sanada
JJNS, 2021, Volume 18, Issue 4(e12436)
※は非会員。本賞は会員のみ授与される。

【奨励賞】

- ◆ 放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所における医療的ケア児受入の関連要因
大槻 奈緒子, 生田 花澄, 福井 小紀子
日本看護科学会誌 2021年41巻 p.29-36
- ◆ 乳児との対面接触による妊婦の対児感情と不安への効果：ランダム化比較試験
園田 希, 高畑 香織, 堀内 成子
日本看護科学会誌 2021年41巻 p.449-457

② 他組織からの表彰候補者の推薦

日本学術振興会賞（第19回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、2名を推薦した。

③ 学術集会演題表彰の実施

第42回学術集会において演題表彰を実施した。

賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は2段階で行った。第1段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者2名以上による採点を行い、上位10名程度を選考した。第2段階では、学術集会当日の発表を座長、および表彰論文選考委員が採点し、最終選考を行い、閉会式で表彰を行った。

【最優秀演題口頭発表賞】

- ◆ 多人数学生を対象とした終末期ケアシミュレーション教育シナリオの開発－主観的評価：フロー体験と客観的スキル評価：OSCEを基盤として－
玉木 朋子、横井 弓枝、犬丸 杏里、藤井 誠、大野 ゆう子、辻川 真弓

【優秀演題口頭発表賞】

- ◆ 日本で就業する中国人看護師の Work Engagement に影響を与える要因
蓑田 さゆり、柳澤 理子

- ◆ 子どものがんの発病から死を迎えるまで子どもの病と闘った母親の生きる力の軌跡：M-GTAによる理論の生成
平田 美佳
- ◆ 圧電センサと画像解析を併用した新生児の自発運動の計量化と動きの関連
斉藤 琴子、島田 啓子
- ◆ 小児科外来における小児期発症慢性疾患患者への成人移行期支援体制の現状
水野 芳子、仁尾 かおり、山崎 啓子、中村 伸枝、黒田 光恵、森貞 敦子、栗田 直央子、川上 直子
- ◆ 新人看護師の看護技術トレーニングシステムの開発ー静脈採血におけるAR法と手順書を用いたトレーニング工程の動作分析ー
水戸 優子、長島 俊輔、森 朱輝、佐々木 杏子、渡邊 恵、加藤木 真史
- ◆ 褥瘡臨床知識の構造化に基づくデジタルパスを用いたデータドリブンチーム医療の実現
水流 聡子、渡邊 千登世、大森 美保、井上 真奈美
- ◆ 機械学習を用いた人的資源データの活用：SHAP値による部署ごとの個別算出
渡辺 真弓

【若手最優秀演題口頭発表賞】

- ◆ Multimorbidityの高齢心不全患者に対する看護師を中心とした多職種介入の有効性
齊前 裕一郎、勝久 美月、生田 花澄、竹下 悠子、糺屋 絵理子、山川 みやえ、竹屋 泰

【若手優秀演題口頭発表賞】

- ◆ ベトナム人技能実習生のCOVID-19流行下における生活状況に影響を及ぼす自身のメンタルヘルスに関する主観的体験
増田 郁美、Tran Ngo Nha Trang、岡本 典子、鈴木 みずえ、木戸 芳史
- ◆ 訪問看護利用中の後期高齢者における問題事象発生の推移：1年後の転帰別の検討
丸山 美幸、山本 則子
- ◆ 在宅脳卒中患者の服薬アドヒアランスに影響する要因と家族機能の特徴：記述的研究
徳重 憲幸、森山 美知子
- ◆ 患者が半側空間無視に気付いていくプロセスーエスノグラフィーの手法を用いてー
染谷 彰、田中 真琴
- ◆ 新人看護師が認識する臨床判断能力の実態調査ー入職3か月後と1年後の看護師の自己評価の比較ー
横山 友美、野崎 真奈美、永野 光子
- ◆ 股関節鏡視下手術を受ける患者の術前から術後3ヶ月の疼痛ーJHEQ疼痛評価の変化ー
佐野 かおり、上杉 裕子
- ◆ Women's experiences with hypertensive disorders of pregnancy from a national referral hospital in Tanzania: A qualitative study
Sachiko Sakurai、Shigeko Horiuchi

【最優秀演題ポスター発表賞】

- ◆ 化学放射線療法を受ける高齢頭頸部癌患者の口腔内有害事象に対する口腔内評価ツールの開発
野中 雅人、眞鍋 真実、澤田 愛希、熊井 琢美、三浦 美佳、服部 ユカリ

【優秀演題ポスター発表賞】

- ◆ 入院中の精神疾患患者の誤嚥・窒息のリスクアセスメント
 湊田 真友佳、松本 智晴、前田 ひとみ
- ◆ 精神障害者のエンド・オブ・ライフケアの概念分析
 郷良 淳子、山本 純子
- ◆ 看護学生が看護専門外来の見学実習から捉えた通院患者の特徴と在宅移行期の支援における看護の学び
 東 真理、山中 政子、松井 利江、森 知美、大内田 靖子
- ◆ 救急領域に入院する終末期患者の外見（アピアランス）の問題
 佐竹 陽子、升田 茂章、石澤 美保子
- ◆ 精神科入院患者の自殺が発生した際の看護職スタッフ支援に関する実態調査
 上山 千恵子
- ◆ ロボット支援前立腺全摘除術後1年間の尿失禁回数およびパッド枚数の実態とQOLとの関連
 川口 寛介、佐藤 和佳子
- ◆ バングラデシュ農村部に在住する妊婦の若年性に関連する課題
 佐藤 洋子
- ◆ Evaluation of pregnancy programs enhancing older primiparas' physical and mental health and marital relationships after childbirth: A non-randomized clinical trial
 Kumiko Nakajima, Ayano Hirose, Tomoko Nameda

【最優秀演題抄録賞】

- ◆ 特別養護老人ホーム入居者における便秘薬の継続使用の実態および排便状況との関連：横断的・継続的観察研究
 高岡 茉奈美、五十嵐 歩、山本 則子

【優秀演題抄録賞】

- ◆ 自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの作成
 玉川 あゆみ、竹村 淳子
- ◆ 看護基礎教育の政策教育プログラム開発に向けたフォーカスグループインタビュー調査結果報告
 石橋 みゆき、小山田 恭子、池田 真理、田中 幸子、西垣 昌和、野村 陽子
- ◆ 看護学実習における臨床学習環境に影響を与える教育指導者の組織要因の検討
 細田 泰子、勝山 愛、根岸 まゆみ、土肥 美子、片山 由加里、北島 洋子、金山 悠
- ◆ アメリカ合衆国で出産した日本人女性におけるピアサポートによる援護
 齋藤 真希
- ◆ 救命救急センターにおけるICUダイアリーの効果
 菊池 鏡平、朱 美恵、前島 直美、村山 陵子
- ◆ 若年認知症家族介護者が抱く秘匿感情の変化
 出貝 裕子、青山 美紀子、森田 牧子、勝野 とわ子
- ◆ 小児集中治療室における人工呼吸器離脱後の乳幼児への看護実践
 関根 弘子

- ◆ ICUにおける看護師の「見えない看護：invisible care」
牛尾 陽子
- ◆ 大規模小売店従業員の職業性ストレス：事業所単位の分析
福島 康子、矢嶋 裕樹、森山 美知子

委員会開催：3回（2022年7月20日、11月17日、12月27日）オンライン会議

(6) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）

会員の大型研究の推進に関する事業、JANSセミナーの企画・開催、学術集会における委員会の活動の報告、オンラインジャーナルクラブの検討・実施、その他の研究・学術推進に関する事業を実施した。

① 委員会としての活動

- ・2020年より獲得支援を行っている「人々が抱える生きにくさの変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名：生きにくさの変容）」について、引き続き支援を行った。
- ・上記の活動に加えて新たに「特別推進研究」「学術変革領域研究（A）」「学術変革領域研究（B）」「基盤研究（S）」「基盤研究（A）」へ研究代表者として申請を予定している会員への支援として「科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト」を開始し、令和3（2021）年12月17日-令和4（2022）年1月31日に申請を受け付け2件の応募があった。審査の結果、涌水理恵氏（筑波大学）が採択された。研究チームの構築支援、研究者同士の情報共有の機会の提供の支援を行っている。
- ・過去の大型研究獲得支援プロジェクトの経験を踏まえ、プロジェクトを進行していく上での規定や申し合わせ事項等の見直しを行った。

② JANSセミナーの企画・開催

- ・第20回JANSセミナー「オープンサイエンスの進展と看護学の未来：オープンデータを看護学研究へ」をWeb開催した（2022年6月27日～9月26日まで）。受講者数は、881名（会員862名・非会員9名・基礎教育課程学生10名）であった。2022年度開催のこの度のセミナーから、会員参加費が無料となった。
- ・第22回JANSセミナーの企画検討を行った。

③ 第42回学術集会での交流集会の企画

第42回学術集会において交流集会「看護学研究の発展を目指して：大型研究の準備・マネジメント・組織づくりから学ぼう！」を開催した。

④ オンラインジャーナルクラブ

- ・社会貢献委員会、若手研究者活動推進委員会との委員会横断型事業として「オンラインジャーナルクラブの実施」について検討を行い、2022年3月2日にトライアルを実施した。参加者は学部学生3名を含む22名であった。
- ・2022年9月5日にオンラインジャーナルクラブを開催した。定員100名（会員80名看護学生20名）設定のところ、90名（会員80名、看護学生10名）の申込があった。
- ・オンラインジャーナルクラブの運営についてのマニュアル等の整備を行った。
- ・2023年3月17日にオンラインジャーナルクラブを開催した。定員100名（会員80名看護学生20名）設定のところ、84名（会員78名、看護学生6名）の申込があった。

⑤ その他の事業

- ・ JANS セミナーのアーカイブ化について、公開期間や発表者への確認事項等を検討し理事会に報告し、承認を受けた。

委員会開催：6回（2022年4月24日、5月15日、10月3日、12月16日、2023年3月14日）オンライン

(7) 看護ケア開発・標準化委員会（須釜淳子理事）

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。

① モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2017 に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする

- ・ 社員に冊子体送付、日本語版は JANS ホームページで公開、英語版ガイドラインは JANS 英語ホームページで公開。
- ・ JJNS、日本看護科学会誌にガイドラインの一部が掲載された。
- ・ 2022年3月22日 Minds ガイドラインライブラリに公開。

② 2019 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

- ◆ 「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」 佐藤正美代表（東京慈恵会医科大学）
 - ・ EAFONS 2023 での発表準備ならびにレビュー論文 3 編の投稿準備を行った。
- ◆ 「高齢者排尿誘導ガイドライン」佐藤和佳子代表（山形大学）
 - ・ 高齢者尿失禁看護ケアガイドラインのアルゴリズムの検討を行った。
 - ・ 「生活指導」にて新規 SR チームを結成した。
 - ・ 高齢者尿失禁看護ケアのうち排尿誘導法のひとつである Prompted Voiding について SR の成果を発表する。

③ 2021 年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

- ◆ 「看護ケアのための便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」須釜淳子代表（藤田医科大学）
 - ・ SR を実施し、ガイドライン作成グループによる推奨文草案の作成、パネル委員会による推奨度決定を行い、統括委員会審議を経て、関連学会 8 団体への外部評価を依頼した。
 - ・ 第 42 回学術集会において、シンポジウムを開催した（2023年12月3日広島国際会議場）。

④ 日本薬理学会との共同学術企画

- ・ 第 96 回日本薬理学会年会（2022年11月30日～12月3日、横浜）において、共催シンポジウム「がん薬物療法における QOL 向上を目指して」を開催した。

- ・第42回学術集会において、共催シンポジウム「スコーピングレビュー インスリンボール」を開催した（2022年12月4日13:45～14:45 広島国際会議場）。
- ・スコーピングレビュー論文執筆を開始した（4編投稿済み、1編2023年4月投稿予定）

委員会開催：18回 全てオンライン

統括	2022年7月1日、2023年3月1日
ガイドライン	2022年5月27日、11月4日、11月10日
SR	2022年4月5日、4月18日、7月2日、8月22日、12月26日
コア	2022年5月23日、7月4日、9月29日、10月20日、 2023年2月10日、2月27日
パネル	2023年2月19日、2月23日

SR: systematic review

(8) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二朗理事）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

① 委員会としての活動

- ・JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。また、JANS 若手の会ホームページについて、若手研究者活動推進委員会の活動の可視化、若手メーリングリストやイベントの広報、今後の更新のしやすさと汎用性の向上を目的に、ウェブサイトの修正案を作成し、ウェブサイトの改修を行った。今後引き続きウェブサイトを通じて情報を発信する。
- ・JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は2023年3月現在で計891名であり、2022年3月時点の788名より増加傾向である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動やイベント投稿が行われた。
- ・日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。

② JANS セミナーの開催

- ・第19回JANS セミナー「質の高い研究の統合からよりよい看護実践を導く：診療ガイドラインの作成と統合研究」（オンデマンド配信）を開催した（2022年3月23日～5月31日）。受講者数は262名（会員245名・非会員15名・基礎教育課程学生2名）であった。
- ・第21回JANS セミナー「看護実践力を高めるDXの今とこれから：データ・デジタル技術の戦略的活用のヒントを学ぼう」（オンデマンド配信）の申込み・配信を2023年3月29日から開始した（～5月31日まで配信予定）。

③ JANS 学術集会企画

第42回学術集会の現地特別企画「集まれ Young Researchers！研究活動の共有・交流をはかろう」を開催した。内容として、第1部「JANS 若手の会エリア・コーディネーターによる研究活動の紹介」では、研究活動を推進・発展させていくための工夫や、若手研究者として直面した困難をどのように乗

り越えたかななどの経験をエリア・コーディネーターが紹介し、研究活動のヒントを共有した。第2部ではワールドカフェ形式で若手研究者間の親睦を深めた。全国各地の約80名の若手研究者が参加し、研究活動やキャリアパス等、活発な意見交換がなされた。

④ COVID-19がJANS会員の教育・研究活動に与えた影響の調査

COVID-19看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を8名選出し、2022年3月に実施した第2回調査について、調査報告第1版を2022年6月19日に提出した。

⑤ エリア検討会開催支援

JANS若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2022年度に開催されたエリア検討会は、2022年5月14日第1回甲信越・北陸エリア検討会、2022年8月20日第3回北関東エリア検討会、2022年11月27日第1回東海エリア検討会、2022年12月6日第1回北海道エリア検討会、2022年12月27日第1回九州・沖縄エリア検討会、2023年2月26日第2回甲信越・北陸エリア検討会、2023年3月4日第4回中四国エリア検討会、2023年3月5日第2回関西エリア検討会、2023年3月11日第4回北関東エリア検討会、2023年3月18日第1回南関東エリア検討会、2023年3月25日第2回東海エリア検討会の計11件であった。過去に開催経験のないエリアでの初めてのエリア検討会開催や、年度内に複数回開催するエリアもあった。開催方法はコロナ禍の影響を受けてオンライン開催が中心であったが、オンライン開催だからこそ物理的距離の影響なく参加することができ、エリアの垣根を作らず全国から参加者を募集するエリア検討会も多かった。それぞれの開催報告をJANS若手の会ホームページ上に掲載した。

⑥ エリア・コーディネーター活動の活性化

- ・エリア・コーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANSエリア・コーディネーター用Slackワークスペース（2022年3月末開設）を引き続き運営した。エリア間およびエリア内のエリア・コーディネーターの交流の場として活用された。
- ・次期エリア・コーディネーターの募集に関する情報発信と検討が行われた。

⑦ 若手研究者の国際化に向けて

世界看護科学学会(WANS)における、JANSとThailand Nursing and Midwifery Council (TNMC)、Korean Society of Nursing Science (KSNS)、The Indonesian National Nurses Association (INNA)との合同開催セミナー（2022年8月9日開催）において、若手研究者活動推進委員よりパネリストを選出した。また、7th WANS（2022年10月18日・19日）のシンポジウムにて当委員会委員が新型コロナウイルス感染症調査結果等を発表した。

⑧ 他学会とのコラボレーション

- ・日本心理学会とのコラボレーションとして、日本心理学会第86回大会にて、日本心理学会と本学会の共同企画として、シンポジウム「シングルケースデザインをどう考えるか：個に寄り添う科学と実践」（一般公開講座）を開催した（2022年9月10日）。終了後、オンデマンド配信した（～2022年10月31日）。
- ・看護理工学会とのコラボレーションとして、第42回学術集会（2022年）において、看護理工学会との合同企画パネルディスカッション「ケアのイノベーション」を実施した。

⑨ 日本学術会議 報告書作成への参画

日本学術会議より提出予定のDXに関する報告書作成に参画している。

委員会開催：常時 Slack にてやりとりを実施し、必要事項について全体で共有している。

(9) 国際活動推進委員会（池田真理理事）

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。

① 委員会企画 交流集会

- ・第42回学術集会で、交流集会「第7回 World Academy of Nursing Science における日本からのシンポジストに学ぶ、プレゼンテーションに伴う経験知の宝箱 ―The progress―」を開催した（2022年12月4日8:55～9:55 広島市文化交流会館）。

② 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・2022年1月に、TNMC（Thailand Nursing and Midwifery Council）の Tassana Boontong 氏が理事長に就任した。WANS 事務局と Website の移行について引き続き支援を行い Website については6月に移行が完了した。事務局移行後も求めに応じて WANS の支援を行っている。

- ・WANS セミナー：開催日時：2022年8月9日（火）日本時間 15:00～18:00

JANS と Thailand Nursing and Midwifery Council (TNMC), Korean Society of Nursing Science (KSNS), The Indonesian National Nurses Association (INNA)との共同企画で、WANS セミナーをオンライン開催した。

事前登録者数 215 名、うち実際に参加した人は 153 名であり、アンケート結果（回答者 58 名）では、6 名の若手研究者の発表に大変勇気づけられたなどの感想とともに、参加をして大変満足していたことがうかがえた。

- ・第7回世界看護科学学会学術集会（WANS）2022年10月開催の4つの招待シンポジウムの中の Education Session において、JANS からは吉永尚紀氏が代表として発表した。

③ 異文化看護データベース

異文化看護データベースの更新について以前より検討していたが、全国の看護職他に利用して頂いていることや、毎月平均 300 回のアクセスがあることが明らかになったため、当初の目的に合わせて、随時積極的に更新していく方針とした。執筆要領を作成し、8月6日に会員を対象に執筆者の募集を呼び掛けた。24 件の応募があり、委員会で検討の結果、13 か国（ハンガリー、イギリス、オーストラリア、モロッコ、エルサルバドル、インドネシア、マレーシア、シンガポール、インド、ネパール、フィリピン、中国、バングラディッシュ）と、イスラム教についての情報を更新した。

委員会開催：1回（2023年2月9日）、データベースについての確認は全委員でメール審議にて行った。

(10) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

看護学が扱う専門用語（看護学学術用語）の概念的統一を図り、これまでに作成した用語を維持管理・普及を行うシステム構築の検討を実施。また新たな用語を検討・追加するための以下の委員会活動を行った。

① 看護学学術用語の電子システムの構築と公開

- ・過去の委員会で概念的統一を図り作成された 100 の用語、ならびに新用語追加を行い、会員への情報提供、会員の容易な活用ならびに普及のために電子システムを構築した。
- ・電子システムは JANSpedia と命名し、JANS ホームページから簡便にアクセス可能とした。
- ・2022 年 4 月から、既存の 100 の用語を JANSpedia (<https://scientific-nursing-terminology.org/>) に掲載した。
- ・JANSpedia の商標登録を行った。

② JANSpedia への新用語追加に対する募集要項等の作成と審査

- ・既存の 100 の用語以外に、新用語を電子システム上に追加できるよう新用語の追加に関する募集要項、審査基準等を作成した。
- ・新用語の募集に関する広報を紙面ポスターならびに会員メーリングリストにて行い、募集を行った。
- ・申請された新用語について審査を行い、計 8 つの新しい用語を JANSpedia に掲載した。
- ・現在、さらに 1 用語の審査中であり、8 つの新用語の英訳を進めている。

③ 第 42 回学術集会での交流セッションの開催

第 42 回学術集会で交流集会「JANSpedia：あなたの看護学学術用語を登録しませんか？」を開催した（2022 年 12 月 3 日 16：00～17：00 広島市文化交流会館）。

④ 日本看護協会主催「看護にかかわる用語の検討委員会」への参加

上記委員会（2022 年 1 月 21 日、5 月 6 日、7 月 1 日、8 月 23 日、2023 年 2 月 13 日）に参加し、看護で扱う用語について意見交換を行った。

委員会開催：6 回（2022 年 4 月 25 日、5 月 24 日、8 月 17 日、10 月 21 日、2023 年 1 月 31 日、2 月 17 日）オンライン

(11) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民公開講座」や次世代の看護学研究者育成事業などを実施。

① 第 42 回学術集会において市民公開講座を開催

第 42 回学術集会で市民公開講座「がんとともに、わたしらしく」を開催した。

会期：2022 年 12 月 4 日 14 時～15 時 30 分

会場：広島国際会議場 Web 講演無料配信あり

演者：広島大学大学院医系科学研究科 教授 宮下美香氏

広島東洋カープ二軍外野守備・走塁コーチ 赤松真人氏

② 次世代の看護学研究者育成事業の検討

- ・次世代の看護学研究者育成事業として、これまで中高生を対象に対面式開催であったナーシング・サイエンス・カフェを再検討した。今期より、次世代育成・発掘事業「人の幸せにつながる科学を探求しま

せんかー看護学への招待」をテーマとして、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」動画とウェブサイトを立てる計画を立案した。

- ・「次世代研究者の発掘育成プロジェクト広報サイト (<https://jans.jp/>) を立ち上げ、「看護学の研究者として生きる」をテーマとして看護学研究者のドキュメンタリー動画を作成し、サイトならびに YouTube よりフルバージョン (<https://www.youtube.com/watch?v=78pjvsQpGMg&t=22s>) とショートバージョン (<https://www.youtube.com/watch?v=INoJ6ew0ark>) を一般公開した。
- ・上記サイトならびに動画を視聴した中高生を対象に、今後、交流会を開催し、次世代の看護学研究者の育成・発掘を目指す。

③ オンラインジャーナルクラブの計画案の検討と試行

研究・学術推進委員会、若手研究者活動推進委員会との合同で会員対象にオンラインジャーナルクラブの内容を検討し、2回の試行を行った（詳細は、研究・学術推進委員会の報告を参照）。

委員会開催：5回（2022年5月16日、6月20日、7月26日、10月24日、2023年1月18日）オンライン

(12) 広報委員会（法橋尚宏副理事長）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存）、学会ウェブサイトの定期的な更新や維持・管理等を実施。

① ウェブサイトの維持・管理・改善

本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

② 学術集会等の広報活動

- ・第42回学術集会のプレスリリースの作成・配布、市民フォーラム（市民公開講座）の広報活動を行った。
- ・第42回学術集会の様子を記録として本会ウェブサイトに掲載した。

③ 委員会成果物の公表

JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2022年度表彰論文の追加掲載を行った。

④ 広報用マスコットキャラクターの制作

学会マスコットキャラクターとして、ジャンとスウを制作した。

⑤ デジタル広報の推進

- ・学会マスコットキャラクター（ジャンとスウ）を使ったデジタル広報媒体を制作し、YouTube チャンネルで公開した。
- ・Facebook ページ（会員が交流できる会員フォーラム）と YouTube チャンネル（電子的広報の場）を開設し、デジタル広報を推進した。
- ・会員向けのニューズレター（電子メールで一斉配信）の創刊の準備をした。

⑥ 日本看護科学学会の公式ロゴについて

- ・本会の公式ロゴ（ロゴマークとロゴタイプの組み合わせ）を整備した。

委員会開催：2回（2022年6月8日、10月13日）オンライン

その他、専用のメーリングリストで常時情報共有と議論

(13) 看護倫理検討委員会（手島恵理事）

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施する。

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

上記の目標に関連し、看護学が関連する倫理的社会的社会事象であるSDGsと看護学に関連するトピックスを取り上げ、第42回学術集会で「SDGs×看護学・研究・倫理」についての交流集会を企画し実施した。Davidson博士のSDGsと看護学に関する講演動画は、翻訳の上、学会HPに掲載した。また、研究倫理に関し、ありかたを検討する必要性について理事会に報告した。

委員会開催：3回（2022年5月メール会議、11月24日・2023年3月31日リモート会議）

(14) 利益相反委員会（井上智子理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大なCOI状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の見直しを行い、学会顧問弁護士、委員会委員との審議による修正案を理事会に諮った。理事会では一部質問等があり、継続審議となった。
- ・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。

委員会開催：1回（2022年4～6月郵送とメール返信で開催した）

(15) 研究倫理審査委員会（井上智子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

研究倫理審査の実施

- ・2021年3月～2022年3月までに3件の申請があり、前年度条件付きの回答をし、再提出後承認2件、申請受理に至らないとの判断により1件不受理とした。
- ・外部機関からの本学会研究倫理審査に関する問い合わせに対応した。

(16) 災害看護支援委員会（近藤暁子理事）

看護系学会と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

- ・災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしている。今期は該当なし。
- ・「コロナ患者の対応を本務としていない JANS 会員（教員、大学院生など）の COVID-19 支援の現状及び所属機関からのサポートに関する調査」の研究計画書を作成した。
- ・上記研究計画書を大学の倫理委員会で承認を得、さらに理事会の承認を経て「COVID-19 感染拡大状況に伴う日本看護科学学会会員である看護職の派遣支援活動と支援ニーズの実態」の調査を実施した（2022 年 7～8 月）。
- ・第 42 回日本看護科学学会学術集会の交流集会において「COVID-19 感染拡大における看護教員や看護職の派遣支援について」を実施した（2022 年 12 月 4 日 10：05～11：05 広島市文化交流会館）。
- ・「COVID-19 感染拡大状況に伴う日本看護科学学会会員である看護職の派遣支援活動と支援ニーズの実態」の調査内容について、さらに分析しなおして英訳し、“Association between anxiety and factors before and after dispatch support activities regarding the COVID-19 pandemic among Japanese nursing researchers” として、本学会英文誌に投稿する準備を行っている。

委員会開催：1 回（2022 年 10 月 27 日）オンライン

(17) 若手研究者助成選考委員会（亀井智子理事）

2020 年からの準備委員会の活動を経て、2021 年 4 月から若手研究者への助成を開始した。

- ・初年度である 2021 年度上期は 3 件の申請があり、2 件の海外留学について助成を決定した。

氏名（敬称略）	計画名	金額
田中 真木	University of Alberta への海外留学	1,060,000 円
八木 街子	ハワイ大学シミュレーションセンター（SimTiki Simulation Center, University of Hawaii）への留学	1,060,000 円

- ・2022 年度は随時募集を行っているが、問い合わせや申請はない状況である。今後改めて募集について検討したい。
- ・2021 年度助成者から報告書が提出され、内容を確認後、受理とした。

(18) 会則等委員会（石橋みゆき理事）

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行う。

① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

研究助成等の新規事業の開始に伴い、正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性を検討。

② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

(19) COVID-19 看護研究等対策委員会（須釜淳子理事）

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第2条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、この COVID-19 の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで理事会承認により設置された。

- ① 第1回調査データを対象とした取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトの成果を公表論文として学会 HP 上に公開した。
- ◆ Yoshinaga N, Nakagami G, Fukahori H, Shimpuku Y, Sanada H, Sugama J.
Initial impact of the COVID-19 pandemic on time Japanese nursing faculty devote to research: Cross-sectional survey.
Japan Journal of Nursing Science. 2022;19(1):e12454.
 - ◆ 天野薫, 森本浩史, 渡邊梨央, 佐藤浩二, 深堀浩樹, 新福洋子, 吉永尚紀.
COVID-19 拡大状況下における看護研究活動の阻害要因と促進要因の探索
日本看護科学会誌. 2021;41:656-664.
 - ◆ Kazawa K, Shimpuku Y, Yoshinaga N.
Characteritics of early-career nurse researchers negatively impacted during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study.
BMJ Open. 2022;12:e059331
 - ◆ Inoue M, Tohira H, Yoshinaga N, Matsubara M.
Propensity - matched comparisons of factors negatively affecting research activities during the COVID - 19 pandemic between nursing researchers working in academic and clinical settings in Japan
Japan Journal of Nursing Science. 2022;19(4):e12491
 - ◆ Takeuchi A, Yokota S, Tomotaki A, Fukahori H, Shimpuku Y, Yoshinaga N.
Relationship between research activities and individual factors among Japanese nursing researchers during the COVID-19 pandemic.
PLOS ONE. 2022;17(8):e0271001.
 - ◆ Nagata K, Tanaka K, Takahashi Y, Asada Y, Shimpuku Y, Yoshinaga N, Sugama J.
Support nursing researchers' need from academic societies during COVID-19: A cross-sectional survey
Nursing and Health Sciences. 2022;24(4):871-881
 - ◆ Inoue M, Fukahori H, Matsubara M, Yoshinaga N, Tohira H.
Latent Dirichlet allocation topic modeling of free-text responses exploring the negative impact of the early COVID-19 pandemic on research in nursing.
Japan Journal of Nursing Science. 2023;20(2):e12520
 - ◆ Lee K, Takahashi F, Kawasaki Y, Yoshinaga N, Sakai H.
Prediction models for the impact of the COVID-19 pandemic on research activities of Japanese nursing researchers using deep learning
Japan Journal of Nursing Science. 2022:e12529 [online ahead of print]

- ② 新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（2回目）を2022年3月7日～3月31日オンライン調査で行い、報告書（日本語版、英語版）をHP上に公開した。
- ③ 第1回・第2回の会員調査のデータを、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託した。
- ④ 第2回の調査データを対象とした、取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクトを公募し、4件採択した。

委員会開催回数：5回（2022年7月13日、8月4日、8月22日、11月8日、2023年1月11日）すべてオンライン

(20) 総務委員会（中村幸代理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した（会員数等については、総務報告を参照）。

① 入会審査、会員管理の実施

入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2022年度の入会審査数は、848名であった（2023年3月31日現在）。

② 学会事務所の運営

- ・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。特にCOVID-19対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。5月からは、5類への移行に伴い事務所出勤主体へと変更した。
- ・事務所の移転のために、移転先の条件を整理・検索・検討し、8月に下記に移転し、HPやメール等で公開した。

東京都千代田区神田須田町一丁目5番地14 ディアモンドビル6階

- ・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

(21) 研究助成選考委員会（法橋尚宏副理事長）2022年6月新設

2022年7月から会員向けに研究助成の申請を開始している。総務会・理事会を中心に以下の活動を行った。

① 実施内容の検討、決定

- ・正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
- ・正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成
- ・資金の確保 等

② 規程（研究助成選考委員会の新設を含む）、細則、申し合わせ事項の作成と理事会承認、設置

③ 研究助成選考委員の提案と理事会承認

- ④ 内閣府公益認定等委員会への変更認定の申請（2022年3月30日）
- ⑤ 助成システム（申請・審査/選考・採択/不採択・報告等）の選定
- ⑥ スケジュールに関する共有
 - ・ 2022年7月以降（募集）、11月～（選考）、2023年3月～（結果の通知）
 - ・ 2023年4月（助成金支払）等

委員会開催：2回（2022年9月27日、12月19日）オンライン

(22) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会（JANA）（法橋尚宏副理事長）

- ・ 2022年度社員総会は、COVID-19の感染拡大を防ぐため、昨年と同様に開催形式を変更して開催された。
- ・ 2022年5月14日に、書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した（オンライン開催）。
- ・ 2022年度社員総会に書面議決書で出席した（2022年6月18日開催）。
議案：2021年度決算報告、2021年度会計監査報告
報告事項：各事業報告、2022年度事業案ほか
- ・ 医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2022年度は4名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については2016年度から行ってきた。併せて毎年開催の協力学会説明会にも参加した（2023年3月15日オンラインにて）。
- ・ その他、JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

- ・ 令和6年度診療報酬改定に向けた第1回委員会に参加した。
- ・ 【看保連】第15回情報交換会「エビデンスをもとに診療報酬を語る」のお知らせを会員メーリングリストにて行った。
- ・ 看護系学会等保険連合の2023年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ3名の応募があり、社会貢献委員会で審査し2名が承認となった。

③ 日本学術会議（法橋尚宏副理事長）

- ・ 日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

④ その他の機関（法橋尚宏副理事長）

- ・ 対応すべき事案はなかった。

(23) 選挙管理委員会（武村雪絵委員長・中村幸代理事）

① 2023年選出代議員選挙実施

- ・第1回選挙管理委員会を2022年7月19日に開催、委員長、副委員長、書記等の役職の決定と、2023年に実施の代議員および役員選挙に関し、今後のスケジュール、委員会日程、公示文書等の確認を行った。
- ・委員長が第3回理事会（2022年8月31日）に出席、代議員選挙に関する公示文書を説明し、承認を得た後、会員へ周知を行った。
- ・第2回選挙管理委員会を2022年11月7日に開催、代議員選挙に関する選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、投票手順、今後のスケジュール等について確認を行った。
- ・2023年1月16日から29日に電子投票を実施、第3回選挙管理委員会を1月30日に開催、立会人のもと開票を行い、当選通知を郵送した。
- ・第4回選挙管理委員会を2023年2月27日に開催し、代議員名簿の作成と理事会への報告を実施した。本委員会で新代議員が決定したため、理事選挙に関する選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、投票手順、今後のスケジュール等について確認を行った。

② 2023年選出役員候補者選挙実施

- ・2023年3月3日公示文書をホームページに公開し、新代議員にメール配信を行った。
- ・2023年3月13日から26日に電子投票を実施、第5回選挙管理委員会を3月27日に開催、立会人のもと開票を行い当選通知の郵送をした。

なお、以降は2023年度となるが、4月24日の第6回選挙管理委員会で役員名簿を作成し、5月19日の第1回理事会に選挙報告とともに提出し承認された。

役員選任案

現役員任期満了（2023年6月18日）による新役員の選任

【理事候補者】

氏名	所属
有森直子	新潟大学
池田真理	東京大学大学院
井上智子	大阪大学大学院
大久保暢子	聖路加国際大学
鎌倉やよい	日本赤十字豊田看護大学
萱間真美	国立看護大学校
グレッグ美鈴	名桜大学大学院
佐藤和佳子	山形大学
田口敦子	慶應義塾大学
仲上豪二郎	東京大学大学院
西村ユミ	東京都立大学
山川みやえ	大阪大学大学院
山本則子	東京大学大学院
吉沢豊予子	関西国際大学
吉永尚紀	宮崎大学

【監事候補者】

氏名	所属
井部俊子	株式会社井部看護管理研究所
数間恵子	元東京大学大学院

(以上17名、五十音順)

第2号議案

法人名:公益社団法人 日本看護科学学会

貸借対照表
2023年 3月 31日 現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	143,114,350	157,858,564	△ 14,744,214
未収会費	2,770,000	2,330,000	440,000
未収金	630,155	555,713	74,442
たな卸資産	27,000	27,000	0
前払費用	7,097,162	6,068,548	1,028,614
流動資産合計	153,638,667	166,839,825	△ 13,201,158
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2)特定資産			
選挙積立預金	1,730,581	3,968,467	△ 2,237,886
退職給付引当資産	8,893,800	7,761,600	1,132,200
若手研究者助成資産	27,880,000	27,880,000	0
研究助成資金	30,000,000	30,000,000	0
特定資産合計	68,504,381	69,610,067	△ 1,105,686
(3)その他固定資産			
建物附属設備	2,421,244	0	2,421,244
什器備品	1,134,768	28,586	1,106,182
ソフトウェア	3,366,000	0	3,366,000
電話加入権	72,030	72,030	0
敷金	3,199,680	0	3,199,680
保証金	0	1,400,000	△ 1,400,000
長期前払費用	54,994	110,000	△ 55,006
その他固定資産合計	10,248,716	1,610,616	8,638,100
固定資産合計	78,753,097	71,220,683	7,532,414
資産合計	232,391,764	238,060,508	△ 5,668,744
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	6,643,276	4,092,208	2,551,068
未払法人税等	75,100	80,400	△ 5,300
未払消費税等	420,000	40,900	379,100
前受会費	17,810,000	18,770,000	△ 960,000
前受金	250,000	360,000	△ 110,000
預り金	274,254	180,018	94,236
流動負債合計	25,472,630	23,523,526	1,949,104
2. 固定負債			
退職給付引当金	8,893,800	7,761,600	1,132,200
固定負債合計	8,893,800	7,761,600	1,132,200
負債合計	34,366,430	31,285,126	3,081,304
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
2. 指定正味財産			
3. 一般正味財産			
(1)代替基金	0	0	0
(2)その他一般正味財産	125,098,710	133,848,758	△ 8,750,048
一般正味財産合計	125,098,710	133,848,758	△ 8,750,048
(うち特定資産への充当額)	(59,610,581)	(61,848,467)	(△ 2,237,886)
正味財産合計	198,025,334	206,775,382	△ 8,750,048
負債及び正味財産合計	232,391,764	238,060,508	△ 5,668,744

貸借対照表内訳表
2023年 3月 31日 現在

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	48,201,169	0	94,913,181	0	143,114,350
未収会費	0	0	2,770,000	0	2,770,000
未収金	620,155	0	10,000	0	630,155
たな卸資産	27,000	0	0	0	27,000
前払費用	6,191,119	0	906,043	0	7,097,162
他会計短期貸付金	0	0	191,589,227	△ 191,589,227	0
流動資産合計	55,039,443	0	290,188,451	△ 191,589,227	153,638,667
2. 固定資産					
(1)基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2)特定資産					
選挙積立預金	0	0	1,730,581	0	1,730,581
退職給付引当資産	0	0	8,893,800	0	8,893,800
若手研究者助成資金	27,880,000	0	0	0	27,880,000
研究助成資金	30,000,000	0	0	0	30,000,000
特定資産合計	57,880,000	0	10,624,381	0	68,504,381
(3)その他固定資産					
建物附属設備	1,699,220	38,643	683,381	0	2,421,244
什器備品	796,374	18,112	320,282	0	1,134,768
ソフトウェア	3,366,000	0	0	0	3,366,000
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
敷金	2,245,522	51,068	903,090	0	3,199,680
長期前払費用	0	0	54,994	0	54,994
その他固定資産合計	8,107,116	107,823	2,033,777	0	10,248,716
固定資産合計	65,987,116	107,823	12,658,158	0	78,753,097
資産合計	121,026,559	107,823	302,846,609	△ 191,589,227	232,391,764
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払費用	6,288,082	0	355,194	0	6,643,276
未払法人税等	0	75,100	0	0	75,100
未払消費税等	227,243	192,757	0	0	420,000
前受会費	200,000	0	17,610,000	0	17,810,000
前受金	250,000	0	0	0	250,000
預り金	0	0	274,254	0	274,254
他会計短期借入金	187,372,070	4,217,157	0	△ 191,589,227	0
流動負債合計	194,337,395	4,485,014	18,239,448	△ 191,589,227	25,472,630
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	8,893,800	0	8,893,800
固定負債合計	0	0	8,893,800	0	8,893,800
負債合計	194,337,395	4,485,014	27,133,248	△ 191,589,227	34,366,430
III 正味財産の部					
1. 基金					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
2. 指定正味財産					
3. 一般正味財産					
(1)代替基金	0	0	0	0	0
(2)その他一般正味財産	△ 73,310,836	△ 4,377,191	202,786,737	0	125,098,710
一般正味財産合計	△ 73,310,836	△ 4,377,191	202,786,737	0	125,098,710
(うち特定資産への充当額)	(57,880,000)	(0)	(1,730,581)	(0)	(59,610,581)
正味財産合計	△ 73,310,836	△ 4,377,191	275,713,361	0	198,025,334
負債及び正味財産合計	121,026,559	107,823	302,846,609	△ 191,589,227	232,391,764

正味財産増減計算書
2022年 4月 1日 から2023年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	125	95	30
受取会費			
正会員受取会費	102,490,000	100,440,000	2,050,000
賛助会員受取会費	250,000	250,000	0
受取会費計	102,740,000	100,690,000	2,050,000
事業収益			
学会誌収益	1,047,560	989,200	58,360
著作権料収益	1,513,095	1,126,064	387,031
セミナー収益	658,000	2,477,000	△ 1,819,000
学術集会収益	45,186,000	37,338,000	7,848,000
広告販売収益	10,006,530	2,344,000	7,662,530
事業収益計	58,411,185	44,274,264	14,136,921
受取補助金等			
受取地方公共団体補助金	237,000	0	237,000
受取民間助成金	3,300,000	400,000	2,900,000
受取補助金等計	3,537,000	400,000	3,137,000
受取寄付金			
受取寄付金	8,041,595	0	8,041,595
雑収益			
受取利息	6	6	0
経常収益計	172,729,911	145,364,365	27,365,546
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	27,000	27,000	0
和文誌発行費	11,080,854	10,526,158	554,696
英文誌発行費	20,223,080	19,847,010	376,070
期末たな卸高	△ 27,000	△ 27,000	0
給料手当	14,455,863	11,793,724	2,662,139
臨時雇賃金	299,702	238,727	60,975
賞与	2,269,156	1,794,820	474,336
退職給付費用	812,643	847,297	△ 34,654
福利厚生費	2,729,382	2,219,928	509,454
旅費交通費	2,631,973	71,938	2,560,035
通信運搬費	5,193,286	4,659,945	533,341
減価償却費	824,302	248,314	575,988
消耗品費	4,765,571	2,155,374	2,610,197
修繕費	86,848	14,066	72,782
印刷製本費	9,187,014	7,028,363	2,158,651
光熱水料費	430,723	387,726	42,997
賃借料	5,433,645	2,702,772	2,730,873
保険料	65,067	50,671	14,396
諸謝金	6,026,295	1,737,139	4,289,156
租税公課	420,000	508,200	△ 88,200
支払助成金	0	2,120,000	△ 2,120,000
委託費	31,193,494	22,186,227	9,007,267
会議費	474,069	260,855	213,214
表彰費	1,211,086	1,198,695	12,391
会場費	27,273,625	3,394,916	23,878,709
通勤手当	952,929	742,992	209,937
雑費	7,009,086	3,277,812	3,731,274
事業費計	155,049,693	100,013,669	55,036,024

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費			
給料手当	5,684,492	7,574,878	△ 1,890,386
賞与	892,302	1,152,780	△ 260,478
臨時雇賃金	30,000	25,125	4,875
退職給付費用	319,557	544,203	△ 224,646
福利厚生費	1,073,277	1,425,816	△ 352,539
会議費	1,796,830	2,204,043	△ 407,213
渉外費	7,967	8,625	△ 658
旅費交通費	115,870	7,195	108,675
通信運搬費	2,758,471	737,800	2,020,671
減価償却費	90,562	167,255	△ 76,693
通勤手当	374,721	477,208	△ 102,487
消耗品費	1,273,084	309,439	963,645
修繕費	34,152	9,034	25,118
印刷製本費	601,009	49,791	551,218
慶弔費	55,530	0	55,530
光熱水料費	169,373	249,028	△ 79,655
賃借料	2,136,677	1,735,939	400,738
保険料	25,587	32,542	△ 6,955
租税公課	53,232	2,268	50,964
支払負担金	430,000	430,000	0
支払寄付金	0	5,000,000	△ 5,000,000
委託費	5,620,642	4,759,742	860,900
資格喪失者会費	2,140,000	2,210,000	△ 70,000
雑費	669,002	802,615	△ 133,613
管理費計	26,352,337	29,915,326	△ 3,562,989
経常費用計	181,402,030	129,928,995	51,473,035
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,672,119	15,435,370	△ 24,107,489
当期経常増減額	△ 8,672,119	15,435,370	△ 24,107,489
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損			
什器備品除却損	2,829	0	2,829
経常外費用計	2,829	0	2,829
当期経常外増減額	△ 2,829	0	△ 2,829
税引前当期一般正味財産増減額	△ 8,674,948	15,435,370	△ 24,110,318
法人税、住民税及び事業税	75,100	80,400	△ 5,300
当期一般正味財産増減額	△ 8,750,048	15,354,970	△ 24,105,018
一般正味財産期首残高	133,848,758	118,493,788	15,354,970
一般正味財産期末残高	125,098,710	133,848,758	△ 8,750,048
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 基金増減の部			
基金受入額	0	0	0
基金返還額	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	198,025,334	206,775,382	△ 8,750,048

正味財産増減計算書内訳表
2022年 4月 1日 から2023年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
特定資産運用益												
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	125	125
受取会費												
正会員受取会費	0	0	0	0	0	51,245,000	51,245,000	0	0	0	51,245,000	102,490,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	250,000	250,000	0	0	0	0	250,000
受取会費計	0	0	0	0	0	51,495,000	51,495,000	0	0	0	51,245,000	102,740,000
事業収益												
学会誌収益	0	1,047,560	0	0	0	0	1,047,560	0	0	0	0	1,047,560
著作権料収益	0	1,513,095	0	0	0	0	1,513,095	0	0	0	0	1,513,095
セミナー収益	640,000	18,000	0	0	0	0	658,000	0	0	0	0	658,000
学術集会収益	0	0	45,186,000	0	0	0	45,186,000	0	0	0	0	45,186,000
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	10,006,530	0	10,006,530	0	10,006,530
事業収益計	640,000	2,578,655	45,186,000	0	0	0	48,404,655	10,006,530	0	10,006,530	0	58,411,185
受取補助金等												
受取地方公共団体補助金	0	0	237,000	0	0	0	237,000	0	0	0	0	237,000
受取民間助成金	0	0	3,300,000	0	0	0	3,300,000	0	0	0	0	3,300,000
受取補助金等計	0	0	3,537,000	0	0	0	3,537,000	0	0	0	0	3,537,000
受取寄付金												
受取寄付金	0	0	0	0	0	8,041,595	8,041,595	0	0	0	0	8,041,595
雑収益												
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
経常収益計	640,000	2,578,655	48,723,000	0	0	59,536,595	111,478,250	10,006,530	0	10,006,530	51,245,131	172,729,911
(2) 経常費用												
事業費												
期首たな卸高	0	27,000	0	0	0	0	27,000	0	0	0	0	27,000
和文誌発行費	0	11,080,854	0	0	0	0	11,080,854	0	0	0	0	11,080,854
英文誌発行費	0	20,223,080	0	0	0	0	20,223,080	0	0	0	0	20,223,080
期末たな卸高	0	△ 27,000	0	0	0	0	△ 27,000	0	0	0	0	△ 27,000
給料手当	6,972,661	1,732,529	4,696,501	732,720	0	0	14,134,411	155,999	165,453	321,452	0	14,455,863
臨時雇賃金	150,426	0	0	149,276	0	0	299,702	0	0	0	0	299,702
賞与	1,094,509	271,957	737,216	115,016	0	0	2,218,698	24,487	25,971	50,458	0	2,269,156
退職給付費用	391,971	97,395	264,016	41,190	0	0	794,572	8,770	9,301	18,071	0	812,643
福利厚生費	1,316,494	327,115	886,737	138,343	0	0	2,668,689	29,454	31,239	60,693	0	2,729,382
旅費交通費	161,520	647,034	1,746,925	42,245	0	0	2,597,724	31,006	3,243	34,249	0	2,631,973
通信運搬費	670,850	228,205	4,091,556	111,761	0	0	5,102,372	76,009	14,905	90,914	0	5,193,286
減価償却費	705,083	27,601	74,822	11,674	0	0	819,180	2,486	2,636	5,122	0	824,302
消耗品費	1,819,512	390,149	2,230,389	250,282	0	0	4,690,332	49,566	25,673	75,239	0	4,765,571
修繕費	41,890	10,409	28,216	4,402	0	0	84,917	937	994	1,931	0	86,848
印刷製本費	119,052	41,237	8,965,268	56,075	0	0	9,181,632	2,612	2,770	5,382	0	9,187,014
光熱水料費	207,755	51,622	139,936	21,832	0	0	421,145	4,648	4,930	9,578	0	430,723
賃借料	2,620,872	651,220	1,765,313	275,414	0	0	5,312,819	58,636	62,190	120,826	0	5,433,645
保険料	31,385	7,798	21,139	3,298	0	0	63,620	702	745	1,447	0	65,067
諸謝金	1,930,559	420,233	3,494,017	181,486	0	0	6,026,295	0	0	0	0	6,026,295
租税公課	12,328	36,578	178,337	0	0	0	227,243	192,757	0	192,757	0	420,000
委託費	6,002,112	1,395,108	18,249,514	5,436,322	0	0	31,083,056	53,596	56,842	110,438	0	31,193,494
会議費	0	36,613	416,172	14,256	0	0	467,041	7,028	0	7,028	0	474,069
表彰費	0	1,211,086	0	0	0	0	1,211,086	0	0	0	0	1,211,086
会場費	0	287,055	26,433,706	106,440	0	0	26,827,201	446,424	0	446,424	0	27,273,625
通動手当	459,637	114,208	309,593	48,301	0	0	931,739	10,283	10,907	21,190	0	952,929
雑費	957,882	1,006,832	4,704,293	302,248	0	0	6,971,255	18,359	19,472	37,831	0	7,009,086
事業費計	25,666,498	40,295,918	79,433,666	8,042,581	0	0	153,438,663	1,173,759	437,271	1,611,030	0	155,049,693

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
管理費												
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,684,492	5,684,492
賞与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	892,302	892,302
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30,000	30,000
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	319,557	319,557
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,073,277	1,073,277
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,796,830	1,796,830
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,967	7,967
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115,870	115,870
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,758,471	2,758,471
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90,562	90,562
通動手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	374,721	374,721
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,273,084	1,273,084
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34,152	34,152
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	601,009	601,009
慶弔費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55,530	55,530
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	169,373	169,373
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,136,677	2,136,677
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,587	25,587
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53,232	53,232
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	430,000	430,000
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,620,642	5,620,642
資格喪失者会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,140,000	2,140,000
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	669,002	669,002
管理費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26,352,337	26,352,337
経常費用計	25,666,498	40,295,918	79,433,666	8,042,581	0	0	153,438,663	1,173,759	437,271	1,611,030	26,352,337	181,402,030
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 25,026,498	△ 37,717,263	△ 30,710,666	△ 8,042,581	0	59,536,595	△ 41,960,413	8,832,771	△ 437,271	8,395,500	24,892,794	△ 8,672,119
当期経常増減額	△ 25,026,498	△ 37,717,263	△ 30,710,666	△ 8,042,581	0	59,536,595	△ 41,960,413	8,832,771	△ 437,271	8,395,500	24,892,794	△ 8,672,119
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外収益												
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用												
固定資産除却損												
什器備品除却損	980	243	660	103	0	0	1,986	22	23	45	798	2,829
経常外費用計	980	243	660	103	0	0	1,986	22	23	45	798	2,829
当期経常外増減額	△ 980	△ 243	△ 660	△ 103	0	0	△ 1,986	△ 22	△ 23	△ 45	△ 798	△ 2,829
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 25,027,478	△ 37,717,506	△ 30,711,326	△ 8,042,684	0	59,536,595	△ 41,962,399	8,832,749	△ 437,294	8,395,455	24,891,996	△ 8,674,948
他会計振替額	0	0	0	0	0	8,633,257	8,633,257	△ 8,633,257	0	△ 8,633,257	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 25,027,478	△ 37,717,506	△ 30,711,326	△ 8,042,684	0	68,169,852	△ 33,329,142	199,492	△ 437,294	△ 237,802	24,891,996	△ 8,674,948
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	75,100	0	75,100	0	75,100
当期一般正味財産増減額	△ 25,027,478	△ 37,717,506	△ 30,711,326	△ 8,042,684	0	68,169,852	△ 33,329,142	124,392	△ 437,294	△ 312,902	24,891,996	△ 8,750,048
一般正味財産期首残高	-	-	-	-	-	-	△ 39,981,694	-	-	△ 4,064,289	177,894,741	133,848,758
一般正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	△ 73,310,836	-	-	△ 4,377,191	202,786,737	125,098,710
II 指定正味財産増減の部												
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0	0	0
指定正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0	0	0
III 基金増減の部												
基金受入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基金返還額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基金期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624
基金期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624
IV 正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	△ 73,310,836	-	-	△ 4,377,191	275,713,361	198,025,334

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)当法人は、公益法人会計基準(平成20年4月11日 令和2年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(2)たな卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法
法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。

①建物附属設備…定額法によっている。

②什器備品…定率法によっている。

③ソフトウェア…定額法によっている。

(4)引当金の計上基準

退職給付引当金…当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(5)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	3,968,467	2,000,050	4,237,936	1,730,581
退職給付引当資産	7,761,600	1,132,200	0	8,893,800
寄付積立資産	0	0	0	0
若手研究者助成資金	27,880,000	0	0	27,880,000
研究助成資金	30,000,000	0	0	30,000,000
合計	69,610,067	3,132,250	4,237,936	68,504,381

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち基金からの充当額)	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産					
選挙積立預金	1,730,581	(0)	(0)	(1,730,581)	(0)
退職給付引当資産	8,893,800	(0)	(0)	(0)	(8,893,800)
寄付積立資産	0	(0)	(0)	(0)	(0)
若手研究者助成資金	27,880,000	(0)	(0)	(27,880,000)	(0)
研究助成資金	30,000,000	(0)	(0)	(30,000,000)	(0)
合計	68,504,381	(0)	(0)	(59,610,581)	(8,893,800)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	2,547,318	126,074	2,421,244
什器備品	2,028,430	893,662	1,134,768
ソフトウェア	3,960,000	594,000	3,366,000

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表の記載
令和4年度医療従事者研修等事業補助金	広島県	-	158,000	158,000	-	-
第42回日本看護科学学会学術集会事業補助金	広島市	-	79,000	79,000	-	-
コンベンション誘致助成金	(公財)広島観光コンベンションビューロー	-	3,000,000	3,000,000	-	-
大規模会議におけるシャトルバス等の運行助成金	同上	-	300,000	300,000	-	-
合計		-	3,537,000	3,537,000	-	-

附属明細書

1. 重要な固定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	3,968,467	2,000,050	4,237,936	1,730,581
	退職給付引当資産	7,761,600	1,132,200	0	8,893,800
	寄付積立資産	0	0	0	0
	若手研究者助成資金	27,880,000	0	0	27,880,000
	研究助成資金	30,000,000	0	0	30,000,000
	特定資産計	69,610,067	3,132,250	4,237,936	68,504,381
その他固定資産	建物附属設備	0	2,547,318	126,074	2,421,244
	什器備品	28,586	1,303,801	197,619	1,134,768
	ソフトウェア	0	3,960,000	594,000	3,366,000
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	敷金	0	3,199,680	0	3,199,680
	保証金	1,400,000	0	1,400,000	0
	長期前払費用	110,000	54,994	110,000	54,994
	その他固定資産計	1,610,616	11,065,793	2,427,693	10,248,716

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	7,761,600	1,132,200	0	0	8,893,800

財産目録
2023年 3月 31日 現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元現金 学術集会用小口現金	運転資金として 学術集会運営資金として	216,113 74,656
預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店 三菱UFJ銀行 本郷支店 三菱UFJ銀行 本郷支店 山口銀行 山口支店 ゆうちょ銀行 振替口座	運転資金として 運転資金として 学術集会運営資金として 学術集会運営資金として 運転資金として	87,776,526 5,286,323 47,776,511 350,002 1,634,219
未収会費	2022年度会費277名分	会員会費未収金	2,770,000
未収金	㈱中西印刷 ㈱メテオ 会費1名分	2023.1~2023.3月分学会誌印税 2022.4~2023.3月分学会誌著作権料 未納退会除外分(4月1日入金分)	617,760 2,395 10,000
たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫	学会誌及び学術講演集	27,000
前払費用	㈱プライムアソシエイツ ウィリアム・ルイス・ホルツマー ㈱杏林舎 日施建物㈱ 事務所賃貸人 事務所賃借礼金 2023.4~2024.3月分 AIG損害保険㈱ 弥生㈱	JJNS編集事務費2023.4~12月分 JJNS編集長報酬2023.4~6月分 システム利用料2023.4~12月分 事務所賃借料2023.4月分 管理業務の用に供している。 個人情報漏洩保険2023.4~2024.4月分 年間サポート更新料2023.4~2024.3月分	3,795,000 1,250,000 1,146,119 549,945 219,978 76,500 59,620
流動資産合計			153,638,667
(固定資産)			
特定資産			
選挙積立預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店	選挙のための資産である。	1,730,581
退職給付引当資産	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店	退職金の引当資産である。	8,893,800
若手研究者助成資金	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店	公益目的事業に係る特定費用準備資金であり、若手研究者への助成費用に備えるための資金である。	27,880,000
研究助成資金	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店	公益目的事業に係る特定費用準備資金であり、研究者への助成費用に備えるための資金である。	30,000,000
その他固定資産			
建物附属設備	東京都千代田区神田須田町1-5-14 間仕切り工事他3点	共用財産であり、公益目的事業の用に70.2%、収益事業等の用に1.6%、管理業務の用に28.2%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	2,421,244
什器備品	東京都千代田区神田須田町1-5-14 電話工事他5点	共用財産であり、公益目的事業の用に70.2%、収益事業等の用に1.6%、管理業務の用に28.2%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	1,134,768
ソフトウェア	助成業務サポートシステム	公益目的保有財産であり、公益目的事業の用に供している。	3,366,000
電話加入権	事務所内	管理業務の用に供している。	72,030

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
	敷金	事務所賃貸人	共用財産であり、公益目的事業の用に70.2%、収益事業等の用に1.6%、管理業務の用に28.2%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	3,199,680
	長期前払費用	事務所賃貸人 事務所賃借礼金 2024.4~2024.6月分	管理業務の用に供している。	54,994
固定資産合計				78,753,097
資産合計				232,391,764
(流動負債)				
	未払費用	中西印刷(株) (株)JTBコミュニケーションデザイン 厚生労働省年金局 (株)エース事務機 その他2件	和文学会誌Vol42(1月~3月)制作費他 第43回学術集会運営委託費用 社会保険料(3月分) エントランスサイン取付工事 公益目的事業に係るもの1件 管理業務に係るもの1件	3,260,202 3,024,128 250,694 99,000 3,752 5,500
	未払法人税等	神田税務署 東京都千代田都税事務所	2022年度法人税 2022年度法人住民税・事業税	3,900 71,200
	未払消費税等	神田税務署	2022年度消費税及び地方消費税	420,000
	前受会費	2023年度会費	2023年度賛助会員50,000円×4口 2023年度正会員10,000円×1,761名	17,810,000
	前受金	John Wiley&Sons Australia Ltd.	2023Vol.20年間編集サポート費	250,000
	預り金	事務所員 事務所員 弁護士報酬他	給与源泉税2023.1~3月分 住民税3月分 報酬源泉税2023.1~3月分	101,380 65,800 107,074
流動負債合計				25,472,630
(固定負債)				
	退職給付引当金	事務所員5名分	2023年3月末日要支給額	8,893,800
固定負債合計				8,893,800
負債合計				34,366,430
正味財産				198,025,334

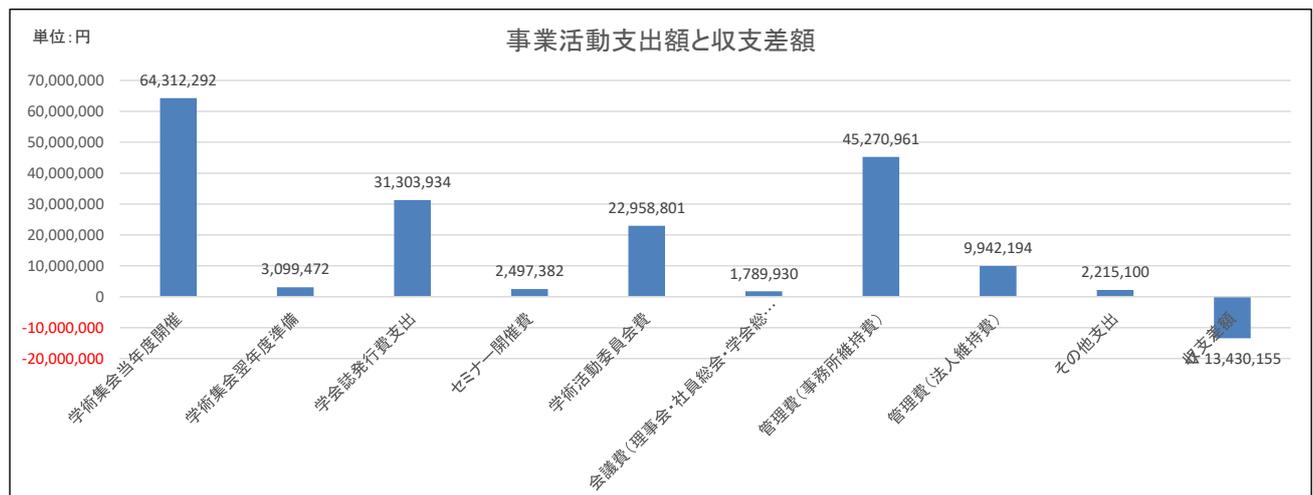
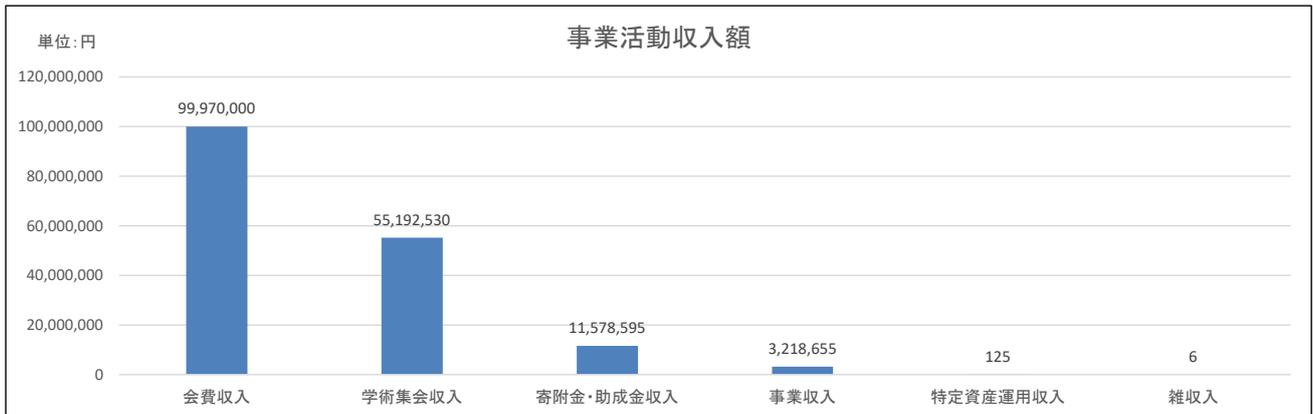
2022年度 収支計算書(案)
2022年 4月 1日 から2023年 3月 31日 まで

科 目	補足	2022年度 2次補正予算額 (2022. 4. 1~ 2023. 3. 31)	2022年度 実績額 (2022. 4. 1~ 2023. 3. 31)	差異	予算執行率 (%)
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
①会費収入		101,450,000	99,970,000	1,480,000	98.5
正会員会費収入	※1	101,200,000	99,720,000	1,480,000	98.5
賛助会員会費収入	※2	250,000	250,000	0	100.0
②公益目的事業収入		62,169,000	59,983,250	2,185,750	96.5
寄付金収入(共通)	※3	8,042,000	8,041,595	405	100.0
学術振興事業収入		3,120,000	640,000	2,480,000	20.5
JANSセミナー収入	※4	3,120,000	640,000	2,480,000	20.5
学会誌事業収入		5,007,000	2,578,655	2,428,345	51.5
学会誌販売収入	※5	377,000	647,560	△ 270,560	171.8
学会誌収入その他	※6	300,000	400,000	△ 100,000	133.3
著作権料収入	※7	3,200,000	1,513,095	1,686,905	47.3
JJNSセミナー収入	※8	1,130,000	18,000	1,112,000	1.6
学術集会事業収入		46,000,000	48,723,000	△ 2,723,000	105.9
学術集会参加費収入		42,500,000	45,186,000	△ 2,686,000	106.3
事前登録会員(10,000円)		20,000,000	23,400,000	△ 3,400,000	117.0
事前登録非会員(12,000円税込)		5,400,000	3,360,000	2,040,000	62.2
事前登録学部生(0円)		0	0	0	0.0
事前登録留学生/海外(2,000円)		140,000	48,000	92,000	34.3
当日・追加登録会員(12,000円)		12,000,000	12,492,000	△ 492,000	104.1
当日・追加登録非会員(14,000円税込)		4,900,000	5,852,000	△ 952,000	119.4
当日・追加登録学部生(0円)	※9	0	0	0	0.0
当日・追加登録留学生/海外(2,000円)		60,000	34,000	26,000	56.7
寄附金・助成金収入		3,500,000	3,537,000	△ 37,000	101.1
寄附金・地方公共団体補助金収入		500,000	237,000	263,000	47.4
助成金収入		3,000,000	3,300,000	△ 300,000	110.0
③収益事業等収入(広告販売収入)		9,911,000	10,006,530	△ 95,530	101.0
企業展示出展料		5,148,000	3,080,000	2,068,000	59.8
広告掲載料		2,123,000	5,738,530	△ 3,615,530	270.3
ランチョンセミナー		2,640,000	957,000	1,683,000	36.3
アカデミックプラザ		0	231,000	△ 231,000	0.0
④法人会計収入		751,000	131	750,869	0.0
懇親会収入	※10	750,000	0	750,000	0.0
特定資産受取利息収入		500	125	375	25.0
受取利息収入		500	6	494	1.2
寄附金・助成金収入(学術集会含まず)		0	0	0	#DIV/0!
事業活動収入合計(Ia)		174,281,000	169,959,911	4,321,089	97.5
2. 事業活動支出					
①公益目的事業支出		129,858,000	119,790,615	10,067,385	92.2
学術振興事業支出		23,650,000	10,592,282	13,057,718	44.8
研究・学術推進委員会費支出	※11	1,540,000	460,125	1,079,875	29.9
看護ケア開発・標準化委員会費支出	※12	10,120,000	2,006,032	8,113,968	19.8
若手研究者活動推進委員会費支出	※13	587,000	165,145	421,855	28.1
国際活動推進委員会費支出	※13	620,000	243,519	376,481	39.3
COVID-19看護研究等対策委員会費支出	※14	300,000	522,590	△ 222,590	174.2
看護学学術用語検討委員会費支出		628,000	712,351	△ 84,351	113.4
看護倫理検討委員会費支出	※13	363,000	130,998	232,002	36.1
災害看護支援委員会費支出	※13	400,000	270,771	129,229	67.7
研究倫理審査委員会費支出		140,000	0	140,000	0.0
研究助成選考委員会費支出	※15	4,500,000	4,736,048	△ 236,048	105.2
若手研究者助成選考委員会費支出		60,000	0	60,000	0.0
若手研究者助成金支出	※16	3,000,000	0	3,000,000	0.0
JANSセミナー開催費支出		1,392,000	1,344,703	47,297	96.6
学会誌事業支出		34,809,000	35,680,480	△ 871,480	102.5
和文誌編集委員会費支出		115,000	63,730	51,270	55.4
和文誌編集費支出		10,870,000	11,080,854	△ 210,854	101.9
英文誌編集委員会費支出	※17	940,000	1,905,081	△ 965,081	202.7
英文誌編集費支出	※18	19,900,000	20,223,080	△ 323,080	101.6
表彰論文選考委員会費支出	※13	354,000	43,970	310,030	12.4
受賞論文表彰費支出		1,500,000	1,211,086	288,914	80.7
JJNSセミナー開催費支出		1,130,000	1,152,679	△ 22,679	102.0
学術集会費支出		65,432,000	67,411,764	△ 1,979,764	103.0
当年度開催学術集会費支出	※19	62,208,000	64,312,292	△ 2,104,292	103.4
次年度開催学術集会費支出(準備期間)	※20	3,224,000	3,099,472	124,528	96.1
市民講座等事業支出		5,967,000	6,106,089	△ 139,089	102.3
社会貢献委員会費支出(市民公開講座開催費含む)		4,477,000	4,661,728	△ 184,728	104.1
広報委員会費支出(公益目的事業分)	※21	1,490,000	1,444,361	45,639	96.9

科 目	補足	2022年度 2次補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	2022年度 補正予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	差異	予算執行率 (%)
②管理費支出		73,342,000	61,384,351	11,957,649	83.7
給料手当支出		25,065,000	23,301,813	1,763,187	93.0
福利厚生費支出		4,512,000	3,802,659	709,341	84.3
通勤費支出		1,910,000	1,327,650	582,350	69.5
退職給付支出		300,000	0	300,000	0.0
学会総会費		520,000	427,520	92,480	82.2
社員総会費	※22	3,400,000	873,003	2,526,997	25.7
理事会費	※23	2,580,000	489,407	2,090,593	19.0
委託費支出	※24	9,286,000	9,361,922	△ 75,922	100.8
人件費支出		40,000	30,000	10,000	75.0
渉外費支出		14,000	7,967	6,033	56.9
旅費交通費支出		357,000	394,799	△ 37,799	110.6
通信運搬費支出		2,124,000	1,814,398	309,602	85.4
消耗品費支出		3,382,000	3,125,150	256,850	92.4
印刷製本費支出	※25	203,000	337,205	△ 134,205	166.1
慶弔費支出		50,000	55,530	△ 5,530	111.1
光熱水料費支出		617,000	600,096	16,904	97.3
賃借料支出	※26	7,114,000	7,570,322	△ 456,322	106.4
保険料支出		91,000	90,654	346	99.6
諸謝金支出		50,000	0	50,000	0.0
租税公課支出	※27	840,000	473,232	366,768	56.3
負担金支出	※28	430,000	430,000	0	100.0
修繕費支出		50,000	121,000	△ 71,000	242.0
雑支出	※29	3,000,000	2,368,758	631,242	79.0
懇親会運営費支出	(※10)	2,288,000	0	2,288,000	0.0
委員会活動費支出		5,119,000	4,381,266	737,734	85.6
総務委員会費支出		10,000	3,240	6,760	32.4
利益相反委員会費支出	※30	135,000	1,190	133,810	0.9
広報委員会費支出(法人会計分)	(※21)	20,000	6,900	13,100	34.5
会則等検討委員会費支出	※30	660,000	132,000	528,000	20.0
選挙費用支出		4,294,000	4,237,936	56,064	98.7
③その他支出		2,200,000	2,215,100	△ 15,100	100.7
資格喪失者会費支出	※31	2,200,000	2,140,000	60,000	97.3
法人税、住民税および事業税	※32	0	75,100	△ 75,100	0.0
事業活動支出合計(I b)		205,400,000	183,390,066	22,009,934	89.3
事業活動収支差額(I a)-(I b)		△ 31,119,000	△ 13,430,155	△ 17,688,845	
II 投資活動収支の部(資金の内部移動)					
1. 投資活動収入(各積立金を取り崩し、それを資金として使用する)					
選挙積立取崩(選挙費用として使用)		4,294,000	4,237,936	56,064	98.7
退職給付引当資産取崩		300,000	0	300,000	0.0
若手研究者助成資金取崩		3,000,000	0	3,000,000	0.0
長期前払費用振替収入		110,000	110,000	0	100.0
保証金戻り収入		1,400,000	1,400,000	0	100.0
投資活動収入合計(II a)		9,104,000	5,747,936	3,356,064	63.1
2. 投資活動支出(目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える)					
①特定資産取得支出(各積立預金に振り替える)		3,300,000	3,132,250	167,750	94.9
選挙積立預金		2,000,000	2,000,050	△ 50	100.0
退職給付引当金積立		1,300,000	1,132,200	167,800	87.1
②固定資産取得支出(固定資産に計上する)		7,109,000	7,105,793	3,207	100.0
建物附属設備取得支出		2,550,000	2,547,318	2,682	99.9
什器備品取得支出		1,304,000	1,303,801	199	100.0
長期前払費用取得支出		55,000	54,994	6	100.0
敷金支出		3,200,000	3,199,680	320	100.0
投資活動支出合計(II b)		10,409,000	10,238,043	170,957	98.4
投資活動収支差額(II a)-(II b)		△ 1,305,000	△ 4,490,107	3,185,107	344.1
IV 予備費支出		1,000,000	0	1,000,000	0.0
当期収支差額		△ 33,424,000	△ 17,920,262	△ 15,503,738	53.6

- ※1 2022年度会員数は10249名(期中死亡喪失、会員区分変更含む)であり、そのうち未納者は277名である。したがって2022年度会費の納入は 9972名分。2022年度会費の納入率は 97.3% (9972名/10249名)である。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版 各1口。会費1口 50,000円。
- ※3 第6回世界看護科学学会学術集会(2020年2月開催)からの寄付金。
- ※4 JANSセミナー参加費(オンライン開催)第19回開催は、2022年度中に入金された参加費のみを計上している。<第19回 622,000円(会員3,000円×182名、非会員5,000円×15名、学生1,000円×1名)>。<第20回 18,000円(会員862名、非会員2,000円×9名、学生10名)>。第20回から会員・学生は参加費無料となっている。
- ※5 2022年度から2冊組(上下巻)になったため、販売価格の値上がりに伴い収入が増加している。
- ※6 和文誌(会員外の共著者投稿料)および、英文誌(会員外の超過ページ課金)。
- ※7 学術著作権協会からの著作権収入を2020年度と同等に見込んだが、例年並みであった。
- ※8 2022年度から会員・学生は参加費無料となっている。JNSセミナー参加費(オンライン開催)<18,000円(会員426名、非会員2,000円×9名、学生1名)>。
- ※9 第42回学術集会の収入。参加者 4306名(会員3381名、非会員698名、留学生・海外41名、学生無償186名)。
- ※10 COVID-19の影響により懇親会の開催を中止した。

- ※11 オンラインジャーナルクラブを2回開催した。大型研究へ応募があり選考をしたが支援は2023年度に行う。
- ※12 ガイドライン(2件)の作成を2023年度に繰り越した。
- ※13 COVID-19の影響により委員会がオンライン開催となり、旅費交通費などの経費の使用はなかったが、委員会活動は予定どおり行われた。
- ※14 COVID-19の影響調査報告書の作成、データベース作成と英文校正翻訳料。
- ※15 助成業務サポートシステム(GratWill)の導入費用・利用料。財務諸表では導入費用を固定資産「ソフトウェア」と記載。外部委員への謝礼金。
- ※16 若手研究者助成金への応募がなかった。
- ※17 JJNS20周年ピンバッジの作成、EAFONSのブース出展費用等。
- ※18 渡航費、宿泊費の高騰により編集長報酬の見直しを行った。
- ※19 第42回学術集会の開催にかかった2022年度中の経費支出。
- ※20 第43回学術集会の準備にかかった2022年度中の経費支出。
- ※21 【広報委員会の活動のうち公益目的事業(市民フォーラム、学術集会)に関する経費を事業費に計上している】
第42回学術集会と市民公開講座の写真撮影・編集、市民公開講座のフライヤー作成、JANSキャラクター動画作成等を行った。
- ※22 6月定時社員総会は、オンライン開催となったため会場費、旅費交通費等の使用はなく、ライブ配信に関する経費の支出があった。12月社員総会は学術集会開催時のため旅費交通費の支出がなかった。
- ※23 12月以外の理事会は、オンライン開催となったため会議費、旅費交通費などの経費を使用しなかった。12月理事会は学術集会開催時のため旅費交通費の支出がなかった。定例理事会 6回(5月、6月、8月、10月、12月、2月)。
- ※24 【法人として必要】
会計事務所報酬(123万円)＜会計顧問料(79万円)、内閣府提出書類作成料(11万円)、社会保険労務士(33万円)＞、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士報酬(40万円)、司法書士業務報酬(6万円)、JANSロゴデザイン料(11万円)・特許取得料(40万円)。
【学会事業に直接必要】
会員管理システム利用料(268万円)＜基本利用料(112万円)、会費コンビニ決済機能(26万円)、学術集会参加登録・行事管理機能(79万円)、アンケート機能(15万円)、クレジット決済機能追加(33万円)、ディスク領域使用料(3万円)＞、JANSホームページ管理料(85万円)＜基本利用料(57万円)、追加ページ費用(28万円)＞、英訳費用(4万円)、オンライン会議システム利用料(24万円)、封入・発送委託費(15万円)。
【事務所運営費】
事務所警備委託費(9万円)、事務所移転関連費用(275万円)＜引越・廃棄・工事等(158万円)、旧事務所原状回復(117万円)＞。
- ※25 2022年度より会費請求書の印刷を業者に依頼している。
- ※26 旧事務所の賃貸契約解約料により予算を上回った。
- ※27 消費税課税売上高(学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など)に係る消費税(本則課税方式)および、収入印紙代。
- ※28 日本看護系学会協議会(JANA) 8万円、看護系学会等社会保険連合(看保連) 30万円、日本学術協力財団 5万円の年会費。
- ※29 会費等入金手数料(163万円)、経費等支払手数料(24万円)、ネットバンキング利用料(2万円)、貸金庫手数料(3万円)、決算に伴う証明書発行手数料(1万円)、給与ソフト年間サポート料(5万円)、Eafons2023/バナー掲載料(11万円)、事務所雑支出(28万円)＜飲料水(9万円)、ごみ処理(3.5万円)、旧事務所機器警備解約料(6.5万円)、お茶・置き薬・衛生用品等(9万円)＞
- ※30 COVID-19の影響によりオンラインでの委員会開催となったため経費支出が抑えられたが、委員会活動は予定どおり行われた。
(※21) 【広報委員会の活動のうち、委員会開催費(会議費)を管理費に計上している。】
- ※31 前年度(2021年度)会費の未納により会員資格を喪失(退会)している会員の未収会費。活動経費支出ではないが、会費未納により収入が減少するため費用に計上している。正味財産増減計算書にも表記されている。
- ※32 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入)に係る法人税3,900円、法人住民税70,200円、法人事業税1,000円。



監査報告書

公益社団法人日本看護科学学会
理事長 堀内 成子 様

2022年4月1日から2023年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について監査いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録）および収支計算書について監査いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2023年4月28日

公益社団法人日本看護科学学会

監事 南 裕子 ⑩

監事 村嶋 幸代 ⑩

独立監査人の監査報告書

令和5年4月27日

公益社団法人日本看護科学学会
理事会 御中

牧真之介公認会計士事務所

公認会計士 牧 真之介

<財務諸表等監査>

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本看護科学学会の令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

＜財産目録に対する意見＞

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づき、公益社団法人日本看護科学学会の令和 5 年 3 月 31 日現在の令和 4 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

第3号議案

名誉会員の承認について

名誉会員についての定款上の規定

第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。

3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第14条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項 (2016年10月23日改正)

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

① JANSの理事長を務めた。

② JANSの役員を通算5期務めた。監事1期は理事2期として数える。

③ JANSの学術集会会長、国際学術集会会長を務めた。

④ 上記①～③に相当する働きをしたと理事会が認めた。

⑤ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をした。

2) 下記の各項目に全て該当すること

a 満70歳以上

b 常勤の現職のないこと

c 理事・社員でないこと

d 本人の同意があること

2023年6月定時社員総会で名誉会員に推薦する会員

前頁の規定に基づき、以下の3名が候補に挙がり、2023年度第1回理事会（5月19日）にて推薦を承認した。

	今村 節子 氏
受賞歴	1985年 厚生労働大臣賞表彰（看護教育） 1990年 文部大臣賞表彰（地方教育行政の充実発展） 2007年 叙勲受章 瑞寶小綬章 2023年 第49回フローレンス・ナイチンゲール記章受章
会員歴	1983年12月2日～現在（40年）
学術集会会長歴	
役員 代議員歴	理事 1987年～1989年 評議員 1987年～1989年、1990年～1992年、1996年～1998年

	小山 真理子 氏
会員歴	1986年2月15日～現在（37年）
学術集会会長歴	第35回学術集会会長（2015年）
役員 代議員歴	理事 1996年～1998年、2005年～2007年（副理事長） 2007年～2009年、2017年～2019年 代議員 2007年～2011年、2015年～2019年、2019年～2023年 評議員 1996年～1998年、1999年～2001年、2005年～2007年

	島内 節 氏
会員歴	1983年3月26日～現在（40年）
学術集会会長歴	第14回学術集会会長（1994年）
役員 代議員歴	理事 1990年～1992年、1993年～1995年 代議員 2015年～2019年、2019年～2023年 評議員 1990年～1992年、1993年～1995年、2002年～2004年、 2005年～2019年